
部

歌

古林先生作詞

一 まや六甲に抱かれて
ここ六甲台の水清し
ちぬの浦和をみおろして
シブキをあげる健男児

二 フリー ブレスト バタフライ
バック リレー ポロまでも
凌泳健児の意気高し
いざや競わん腕を撫し

三 ああなつかしの水泳部
六甲台のプール辺に
月見の宴で泳ぎやめ
くる夏まつていきりたつ

同前

水 泳 部 歌

作詞 古 林 喜 楽
作曲 山 田 貴 彦



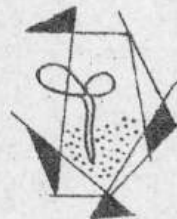
1. ま や 六 - 甲 - 川 い だ か れ て こ こ ち が お か の
2. フ リ - ブ レ ス ト バ タ フ ラ イ バ ッ ク - リ レ -
3. あ あ な つ か し の す い え い ぶ ろ つ こ う だ い の -



み ず き よ し ち め の う ら わ を み お ろ し て し ぶ し ぶ き あ -
ボ ロ ま で も り よ う けん じ の い き た か し い ざ い ざ や き そ -
ブ ル ベ た つ き み の ん で - お よ ぎ や め ぐ る な く る な ま -



げ る け ん ん だ ん じ
わ ん う で を - ぶ し
- て い き い り た つ



温水プールの実現

古 林 喜 楽

私は毎年年賀状に歌ならぬ我流の歌らしきものを書きそえることにしているが、今年のは

われもまた泳がんかなと思えども

老人オリンピックなきぞ悲しき

と意気さかんなところをのぞかせておいた。冬が暖かだとこの調子なら今年は少し早く泳げそうだと思ひ、三月上旬だというのに和歌山では気温二十二度だときくと、そろそろ泳げるかなと、ひとり悦に入るほど、水泳は私の生活のなかにしみこんでしまつた。夏が近づくと浮き浮きしてくるし、冬が近づくと淋しくなるのも、ほかの人とはいささかちがつた原因がひそんでいるのである。

昨年の夏、若冠シヨランダが、日本で数々の世界レコードを残していつた。聞けば彼は年中、毎日五時間づつ泳いでいるという。彼のことなら流しているといつても、千五百米をあるいに二十分位で泳ぎつづけているかも知れない。そうすると、彼は毎日毎日二十二軒泳いでいることになる。

私は子供の頃、悲壯な決意で五里の遠泳をやりとげたことがあ

るが、シヨランダは毎日毎日五里以上の遠泳を我々の百米決勝のスピードよりも早いスピードで繰り返していることになる。これなら疲れを知らないローティーンの者が実行しさえすれば、日本にだつて次々にシヨランダが出現することになるであらう。

それにつけても、何とか日本にも温水プールがいたるところにできて年中泳げるようにならないものであらうかと思う。そうなれば、私も毎日一時間ぐらひは泳いで現役選手の鼻をあかすこともできようものをと、時々秘かに嘆いたり、腕を撫したりしている。

温水プールを普及し、誰でもが年中泳げるようにする以外に、水泳王国の夢よりも一度はかなえられないのではなからうか。

六甲台へ学会統合の機をとらえて五十米プールの建設をという声も出ているようではあるが、私はむしろ温水プールの実現を望んでやまない。冬一泳ぎして外へ出れば雪がチラチラ降りかかる、見おろせば夜のとばりに港神戸はとざされて、ネオンの海の一億弗(百万弗)の眺めが展開している。東京から古い夜泳会会員が出張してきた。「オイ君！三宮へ行くまえに一寸一泳ぎしてこようぢやないか。」二人は車で六甲台へ！プールの中に入ると白髪の老人が泳いでいる。「ああー先生じやないですか。」「俺は毎日ここへ通うのが日課だよ。何なら久方ぶりに千米位の競泳をやろうか。」ここで爆笑がおこり、それからその後みんなは

連れ立つて三宮へ。その時のピールのうまいこと！うまいこと！
ああー 思うだに胸がぞくぞくしてくるではないか。

三十八年度経過報告

22回 石井 義章

本年度は愛泳会として多少動きのあつた年となりました。以下
順を追つて経過報告的に御説明させて頂きます。

四月二十八日(日) 愛泳会総会、於神戸大・職員食堂

この総会に出席したのが現役の学生の外は私と中島君(新一)
外に三人ばかり。古林先生も御出席頂き、例によつて愉快な
話など伺い、楽しい一日でした。その席上学生御より愛泳会
費値上げの件が提案されました。現在の年間千円を千五百円に
したいと云う訳です。提案理由としては、先づ物価の値上り、
それに部員の増加、又合宿その他練習量の増加等により部員の
自己負担が重くなつて来た事等であります。成程、会費はここ
数年來千円のまま据置かれ、又他の運動部の話を聞いてみても
二千円、三千円と云う処が多い様で、千五百円に上げて良い
のではないかと思つたのですが、何分突然の話であり、二百人

以上も会員の居る愛泳会の会費をわずか四・五人で決めるのも
どうかと思ひ、又会費の値上げを現役側から提案されるのも妙
な話ではないかと云う事で、私と中島君とて責任を以て善処す
るからと、その場は一旦保留としました。

早速幹事の三宅様に総会の模様を報告、会費の件も相談しま
した処、三宅様も一存で決められるものではなし、又愛泳会の
組織、会則等も曖昧になつていたので、一度在神の会員に集ま
つて頂き、会費の件のみならず会のあり方につきこころで根本
的に再検討しようとする事になりました。

六月二十日(木) 愛泳会小集会

前述の件を討議頂く為、神戸市内パウリスタ食堂に左記の方々
にお集り願いました。

溝口(高18) 山田(学1) 村上(学7) 大内(学8)
前田(学11) 三宅(学16) 石井(学22) 小原(新2)
佐藤(新3) 富岡(新4) 岡田(新5) 岡見(新6)
北村(新7) 宇賀(新8) 丸山(新11)

古い先輩より昔の愛泳会の運営方法、又現役との関係等につき
色々お話を伺い、今後の会のあり方、進め方等につき熱心に御
討議頂きました。

結論として、愛泳会は本来O・Bの親睦団体であり併せて、
現役の指導、援助を目的として発足したものと考えられるが、
現在では、O・Bの親睦としての性格はほとんど影をひそめ、

わずかに機関誌「凌泳」が発行されているが、これとても殆んど現役におんぶされた形になつてしまつてゐる。現役の経済的な援助も必要であり大切かもしれないが又、戦後の窮乏時代でもないのだから、凌泳会O・Bにとつてももう少し魅力あるものにし、せめて総会或は月見の宴には会員の大半が全国から集まつて来るようにしたい。急には実現出来ないにしても、その為の努力なり準備をして行きたい。

また会費値上げの件も止むを得ないと思うが、その集金方法を工夫すればもつと集まるのではないか。

と云う様な話が出ました。そして最後に三宅様が幹事交代の希望をもらされました。三宅様が幹事となられてから約10年になりますし、会がこうやつて再編成されようとする動きにある時、幹事交代して気分を一新するのがよからう、との事であり、代りとして私と岡田君(新5)が指名を受けた次才です。

しかし何れにしましても今日の集会は単なる小集会であり、この場で決定する事は出来ませんので、来るべき秋の月見の宴を臨時総会と云う事にし、それ迄、私と岡田君とが世話係として下準備をして行こうと云う事になりました。

九月七日(土) 月見宴 於、プールサイド

恒例の月見宴は、特に臨時総会として開催、左記の方々にお集り頂きました。

田口水泳部長、山田先生、吉野(学9)、三宅(学16)、

石井(学22)、小原(新2)、榊原(新3)、岡田(新5)
山口(新5)、岡見(新6)、阿部(新6)、江川(新7)
酒井(新9)、萩原(新10)、丸山(新11)

議題

一、幹事改選の件

現幹事三宅様の辞任を承認し、新幹事として石井(学22)岡田(新5)を選出する。尚、右二名を本部幹事とし、外に支部幹事若干名を選出する。支部の設置及支部幹事の人選は本部幹事に於て検討し、次期総会に推薦する。

一、会費の件

昭和三十九年度より会費年間千五百円とする。

一、会則の作成

本部幹事に於て会則案を作成、次期総会に提出し審議する。大要以上の様に決定致しました。

その後十月より本年一月にかけ前幹事三宅様、私、岡田君、それに岡本様(学12)の四人で、教回集まり、古林先生或は田口部長先生をお訪なし種々協議致しました結果、別項の如き会則案を作成致しました。

会則案の内容及び作成の経緯につきましては、又その方で説明しておりますから御高覧願います。

以上御報告申し上げます。

渡泳会会則の事

三十八年度経過報告にも申し述べました通り三十九年春の総会に於て当会会則を決定致し度いと存じます。就きましては左記会則案予め御検討の上、総会の席上御審議頂き度く御願ひ申し上げます。

尚総会に出席頂けません場合は同封のハガキにて賛否及び御意見お報らせ賜わります様御願ひ申し上げます。

渡泳会会則 (案)

第一章 総則

才一条 本会は渡泳会と称する。

才二条 本会は事務所を神戸市生田区相生町一丁目八の一岡田ビルに置く。

才三条 本会は会員相互の連絡と親睦を図ると共に、神戸大

学水泳部の発展に寄与することを目的とする。

才四条 本会は前条の目的を達成する為に、左記の事業を行

なう。

一、 会報及び名簿の発行

二、 会員相互の連絡

三、 定例総会及び各種の親睦会合

四、 神戸大学水泳部発展の為の指導及び援助

五、 その他本会の目的を達成するに必要な事項

才五条 本会則の制定及び変更は、総会の決議によつて行な

う。

第二章 会員

才六条 本会の会員を分けて正会員・特別会員及び在学会員

とする。

才七条 正会員とは次のものを云う。

●国立神戸高商

●肥国立神戸商業大学

●同附属商学専門部

●神戸経済大学学部

●南村二村部

●同附属経営学専門部

●神戸大学

以上諸学校に於て在学中水泳部に所属したるもの。

才八条 特別会員とは次のものを云う。

一、 前条の諸学校の教授で水泳部々長であつた者及び

現在ある者。

二、 その他総会の決議によつて推薦した者。

才九条 在学会員とは次のものを云う。

現在神戸大学学生で水泳部に所属するもの

才十条 会員は会費として年額一、五〇〇円を当会へ納入す

る。

但し、在学会員は会費を免除する。

才三章 役員

才十一條 本会には左記の役員を置く。

- 会長 一名
- 副会長 一名
- 幹事長 一名
- 本部幹事 若干名
- 支部幹事 若干名
- 会計監事 二名以内

才十二條 役員の改選は総会の決議によつて行なう。

才十三條 役員任期は一年とし再選を妨げない。

才十四條 会長は本会を代表し且統轄する。

才十五條 副会長は会長を補佐し、会長事故ある時はこれを代行する。

才十六條 幹事長及び本部幹事は会長・副会長を補佐し総括的会務の執行に当る。

才十七條 支部幹事は各支部の事務を執行すると共に本部の諸活動に協力する。

才十八條 会計監事は会計の監査に当る。

才十九條 会長、幹事長、本部幹事を以て役員会を組織し総会の決議に従い、会務の運営に当る。

才二十條 役員会は会長これを招集する。

才二十一條 総会は少くとも二週間以前に会議の目的を明らかにした通知を以て会長これを招集する。

才二十二條 総会は毎年、春秋の二回とし臨時総会は必要に依じて招集する。

才二十三條 総会の決議は出席会員の過半数を以て決する。

但し、当該議事につき書面を以てあらかじめ意志を表示したものは出席とみなす。

才二十四條 本会の経理は、会費・寄附金及びその他の収入によつて賄う。

才二十五條 本会の収支決算については、会計の監査を経た上春季総会に於て報告しその承認を受ける。

才二十六條 本会の会計年度は毎年四月一日より三月三十一日までとする。

才二十七條 本会則は昭和三十九年 5 月 16 日より発効する。



招 集 通 知

当時は九月に入ると早々にいつも合宿に入ることにしていた。今のように他所で合宿するようなことは滅多になく、学校のブールの近くの下宿屋で、下宿の学生が帰つて来る迄の間に済ますのであつた。夏休み中のダレた調子を整えて、インターカレッジに備えるためであつたが、長い夏休みのあとだけにいつも集まりは悪かつた。京阪神附近の者は呼出しに行つたり電話をかけたりに何とか間に合つたが、中国や四国・九州方面の人はそうはいかなかつた、何とかして期日に顔を揃えたいものだと考えていた。ところが或る年、招集の期日に遠方の人が皆揃つて集まつた事があつた。不思議なこともあるものだと思つていたが、どういふ事情があつたのか分らないまゝに練習に入つた。

漸く練習にも油がのつて来たときのこと、たしか昼寝の時間でゴロ寝をしていたとき、一枚のはがきが回覧に廻つて来た。中国のK君に宛てた招集の通知であるが、良く見ると、はがきの終りの方に、小さく、男性のシンボルの絵が書いてあつて、その横に「この次に行くはがきには、この絵がウンと大きくなる」と書いてあつた。

私は元來歯性が悪く、学生時代から既に入レ歯をしていた。けい続歯といつて前歯を根本の所まで削り、穴をあけ、別に金の棒のついた義歯をはめ込み、セメントで固めてあるのだが、この接触触が中々うまく行かず時々何かのショックで外れることがあつた。或るとき、一日のスケデュールが終つて、一人残つてスタートの練習をしていたとき、飛び込んで暫くして口中が変な具合だと思つて舌で触つて見ると入れ歯が一個取れていた。何分金がついてるので、一本でも中々高価であつた。飛込んだ拍子に落ちたに違いないので、その附近をもぐつて探したが中々判らない。一時間ばかり探しあぐんでいると、K君がやつて来て、事情を聞くと、合宿へ帰つた連中を四、五人連れて来て皆で探してくれた。十分程経つたとき、君が見付けた。底でピカツと光つていたのですぐ判つたと言つていた。その晩は何かおどらされたに違いないが、今は記憶がない。早速歯医者に行つてつけて貰つた。

一週間程して合宿の仕上げのとき、皆でスキヤキをした。その最中、向い側にいたN君が、おい、山ちん歯はどうした というので触つて見ると、無い。食物と一緒に呑み込んで了つたらしい。こんどはすぐ出てくるよ、とN君は言い、皆が笑つた。たしかにすぐ出てくるに違いない。けれ共、かりに出て来たとしても再び口中の用に供するわけにはゆくまい。イマイましい下手糞歯医者

め！と思つたが、その後その歯をどうしたか憶えがない。ただ、今でも強く印象に残っているのは、暮れかゝるブルで、ドブンドブと皆が飛込んで、歯を探してくれた友達姿である。

合宿の思い出

学 7 村 上 秀 造

1. オバケ屋敷・と合宿

戦前、昭和十二年頃は、住の問題で頭を使うことはなかつた。下宿でも、間借りでも……

戦前のよき時代には飲み代はあつても合宿代がない。何とか安上がりと頭をひねつたあげく、考えたのが貸家と自炊である。当時は貸家の紙が斜めに貼りつけてあつた空家が多くあり、亦家賃も安かつた。安い家安い家とさがしている間に、家賃はいらない、食事も十人位ならサービヌしてあげようといつた申出が数件あつてよくしらべて見ると、之れが所謂・オバケ屋敷・で借手がなく学生に・オバケ・が出ない証明をして貰おうと云うわけである。結局よからうということになつて落着いた家が旧関西学院にある外人官舎跡で外人教師の奥さんが殺されて幽霊が出るうわさがあつた。

然しいざ這入る時になつて異議が出た。伊藤君こと、オジイチヤン・からで、自分は寝起きが悪く部員が朝の講議に出た後一人残つた時に、オバケ・が出たら困るといのが表面の理由であつたが要するに、目的を忘れて無理をするなど云うことであつたと私は考へている。

2. 合宿の食事と伝統ある水泳部

上筒井の東にある王寺町一丁目合宿した時のことである。日がたつにつれ食事がだんだん悪くなつて来た。口やかましい部員の諸君からけしからんと意見が出始めた。合宿のおばさんに団体交渉することになつたが、いやな事は誰れも言いたがらず結局伊藤君が鈴をつけることになつた。その時のセリフがふるつていた。こんな食事で合宿したとあつては伝統ある神戸商業大学水泳部の名折れである……と、さすがのおばさんも胃(カブト)を脱いで、翌日から一皿多くなつた。

3. おわりの言葉

戦後の学生はアルバイト等をなし、余暇を自力でエンヂョイする。合宿する時でも平素より蓄え、合理的に余裕をもつて身を鍛練し、楽しむ。吾々の昔時に比較して贅沢だと批判する向きもあるようだが、私は必ずしもそう思わない。過去の常識は必ずしも現在の常識にはならない。世の中はどんどん進歩し環境もそれに

つれてよくなつて来ていたのである。

然し吾々の乏しい学生々活にもそれぞれのよさはあつた。吾々七回生はそれぞれ傑出した選手がいなかつたので全員協力し、いざという時には伊藤君の意見によつて行動した。お互いの乏しさは協調、協力で結び血の通つた学生々活を体験した事は、卒業後の会社生活にも非常にプラスになつていてと考へている。

思 出 二 題

学部十回 森 芳 夫

一、水 書

昭和十三年七月の阪神水書は私が神戸商大に入学し、水泳部初めての合宿の時でしたので思い出深いものです。

三商大戦に備へて篠原北町（はつきりした町名は忘れた）の素人家の二階を借りて居りましたが、私は丁度その前日独乙語の試験の勉強で大土平町のアパートに帰つて居りましたが、隣りの独乙人の家が見え、アパートが土砂の為に埋るのを見て水の恐ろしさをつくづく味わいました。合宿も下が埋つて、二階の窓から出入りする始末で、キャプテンの大内さんが足に怪我をされたのもその時でした。

友人からズツクを借りて郷里へ帰つたのがつい此の間の様に思ひ出されます。

三商大戦参加取止めと思つて居りましたが電報が来て急拠上京、神宮プールで懸命に泳ぎましたが、練習中断など悪条件で、優勝を逸しました。

二、優 勝

私の水泳部生活で優勝したのは、二年の時一回だけで、当時のキャプテンは中村市治氏で、甲子園プールで圧倒的勝利を収めました。

優勝の興奮さめやらぬままに、先輩の御好意に依り、甲子園よりタクシーで大阪の祝勝会にのぞみました。

自動車が進まると大谷先輩の命令で、学生は上衣を脱げということになり、何処に行くのかと思ひましたら、大きな玄関に奇麗な女の人が多勢三つ指つてお出迎えます。之が有名な大和屋でした。

すつかりよい気持ちになつて北村先生始め、皆が大いにはめをはづしましたが、之が縁で、それからの試合に奇麗な応援がスタンドに花を咲かせ、他の学校からひがまれたものです。当時を思い起して、にたにたしている人がいると思ひます。

好き時代の好き一日でした。

年令と水泳

凌泳会のこと

学十二 岡 本 忠 男

また春がやつてきた。庭で囀えざる小鳥もどことなく生々と飛びまわり始めたようだ。そろそろ水が恋しくなってくる。

昨年は「対大阪市定期戦」「旧三商大戦」を参観したが、わが神大水泳部員は協力一致してよく泳いだ。たのもしく思つたのだが、「対大阪市定期戦」で両校とも反則者を出したことは残念なことであつた。

昨年、私はとうとうO・Bのリレーには出場しなかつた。若い卒業生が多くなつてきたのも理由の一つであるが、実のところ五十米競泳することは、いささか自信を無くしたのが本音であらう。老兵の仲間入りをしたかもしれない。だが四十才以上のO・B競泳でもやつてくれればまだまだ負けないうファイトがありますかね！

神大プールに昨年も時々泳ぎに行つたが、年をとると共にタイムが悪くなるのが、当然のことではあるが、つくづく感じた。「収獲遞減の法則」の理論によくにている。現在では練習せずにいきなり背泳で百米を泳ぐと一分四十秒もかゝる。腹がぼつかり

浮いて少しも進まない。ある一定の年令になると一年に一秒づつ遅くなる傾向があるようだ。年令はタイムを遞増する原則を身にしみて体験した。初春や年を数えぬ年になりけりである。

凌泳会の新発足に就いては石井君（学22回生）に御報告をお願ひしたのであるが、少し補足してみたいと思います。

神大水泳部は年々卒業生が増加してゆくの、この際に凌泳会の今後の発展と親睦のため、組織を充実してはどうであるかと若い卒業生の中から申入れがあつた。そこで再三合して協議した結果、会則案を作成し（会長、副会長、幹事長、幹事、地区別支部役員を選定し）、来る昭和三十九年度の総会で審議することになつた。

本年一月と二月上旬に東京に出張した際、山口さん（学10回生）にこの件を電話連絡し、今後の運営に就いて相談を申し上げた。その後手紙で詳細に説明するように連絡があつたので、二月下旬東京に行き、山口さんと同行し小山さん（学1回生）と面談し、凌泳会運営に就いて種々御相談申し上げ、大体の御諒解をえた次第であります。

山田水泳部々長がアメリカから昨年の秋に帰国されたので、古林先生が山田、田口先生、凌泳会数名を某所に招かれた。私も出席したが、そこで北村先生と古林先生が水泳部の部長、副部長の

先例にならつて、山田先生を部長、田口先生を副部長に就任して、下さるより両先生に懇請され、両先生も心よく承諾された。凌泳会としては鬼に金棒で誠に有難いことであつた。謹しんで御報告申し上げます。

古林先生が何時も変らず凌泳会のために御尽力下されていることについては会員一同深く感謝せねばならぬだろう。有難き師を仰ぎて、今日もわれ、飛沫をあげて、泳ぎまくらんゝの気持で現部員仲良く頑張つてもらいたいものである。

虹

学 16 三 宅 花 浪

泳者発つ一瞬の虹知らずして

三商大戦に主審を務めた。号砲一発！若人は一斉にスタート台を蹴つた。その飛沫が一瞬の虹を描いた。泳者は知らず力泳、自分にもこの一瞬があつたのだ。

浮身して天の広さを支えけり

寒 泳 七 題

寒泳のかけ声厳し全身より

寒泳の男水まで大股に

寒泳にまつわる水がもり上る

寒泳の一隊岸へ来て崩る

寒泳の女体包みし小さき渦

寒泳の女の声の荒々し

寒泳に向う女の薄化粧

「イギリスにて」

新3 佐藤 一 夫

六甲台プールに別れを告げ既に九九年、今シーズンを無事勤めあげれば、十年選手の資格を取得し、多額のボーナス獲得も夢でないのはプロ野球選手のこと。小生のような薄給のサラリーマンにとつてエラクなるのは仕事の量と質に追い過されている身体のみと云い切つてしまえば身も蓋もないが、幸いにも六ヶ月の短期間ながらロンドンに生活する機会を得たので、皮相的觀察に基づく外れの感想を少し。

黒人はアメリカにしかないものと思ひ込んでいた小生にとつてロンドンに住む相当の教にのぼる黒人を発見したときには少な

からず驚いた・バス・地下鉄等の交通機関、大衆食堂などの飲食店は白人を殆んど追い出して、彼等の働き場所と化している。しかし彼等はすこぶる温厚でニューヨークの下町に見られる狂暴性は少しも感じられない。これも英国の長年に亘る植民地政策の賜物であろうか、ロンドンに定住できる喜びと誇りを感じさせるほどである。

最初見分けのつかなかつた小生の眼にもだんだんと同じ白人でも英国人と外国人の別が映るようになると、街を行く人々の中に外国人乃至外人系の人間の如何に多いことに撫然とする場合がしばしばである。買物日でもないのに盛り場をうろついているのは観光客であり、カメラをぶら下げながら、街頭写真を撮っているシーンによく出くわす・飲食店街には各国人が軒並に自国料理の腕を競っているし、大陸からの留学生の数も馬鹿にできない。外人登録所では入国者が連日長蛇の列を作つて証明書の交付を受けている。

程よくのびた脚にハイヒールをつけてさつそうと歩いている女性に比べて、ロンドンの男性には比較的小柄なのが多い。それもがつしりした体格をしている中年以上の男性と対照的に二十才前後の若者には身体の貧弱なのが目につく。地下鉄などに集つていても、思はず見上げる程の体格のいい奴は少ない。日本人がこの点で追いつき追いこせる日もそう遠い夢ではないようだ。そのせいであるまいが、少なくとも通勤時においては乗物で女性(老

人も含む)に席を譲つている男性に残念ながらお目にかかれなかつた。ここで女性をむしろ職域における競争者としてみているのではなからうか・いずれにせよ、職業をもつ女性が多いのは事実である。ホワイトカラー族には大学出は殆んど見当らず、中学教育を終えて実社会に飛び出し、下からコッコツ叩き上げた人間が多い。大学の数が少なく、その大学でも本人の実力のみで勝負できる真の意味の大学の門は更に狭いとなれば中等教育だけで不本意ながら満足し、自己の所属する階級で自己の分を守るというアキラメ・ムードが漂うのも無理からぬ話。なにせケンブリッジ、オックスフォードあたりの一流大学になると定員の殆どは縁故関係次の殆どは外国からの留学生、残りの殆どのみが一般の子弟に開放された実力本位の競争によるものと聞いた。事務系ならまだしも現在の技術革新の時代に会社のブレインになるべき最高学府を出た理科系の人材に乏しいという事実は他人の国のことながら先行きが思いやられる。

国民性の相違とは云うものの、恋人あるいは夫婦同志の周囲を顧りみない愛情交換の表現の大胆さにはロン・チョンにとつて、これほど頭にくるものはない。ロンドンに限らないだろうが駅頭において公園において、はたまた映画館におけるラブシーンには思わず怒鳴りつけてやりたい衝動に駆られるが、日本の紳士としてそうもいかず、無関心の眼差で見送る以外に手はない。時間つぶしに始めに入つたニュース映画館で後方に陣取るアベック群に

完全にノックアウトされ、次回からは必らずスクリーンに近い席を取つたのはあながち料金の安いせいばかりではない。

なるほどロンドンの街を歩いていても放歌高吟、千鳥足の酔払いや肩を怒らして闊歩する愚連隊にはお目にかかれなかつたが、ロンドンのあちこちに見受ける落書きは日本以上に程度が悪いのではないかと思う。用便のためとある大きなビルに入つたとき密室の扉の裏側に誠に見事な見取図が彫つてあつたのに感心した。劇場、音楽堂の階段、地下鉄の地下歩道などの壁にはもちろん、汽車の内部の到る所にまで日本で馴染み深いマークに類似した模様や名句迷文が書き留めてある。中には○○本はだしの立派なものもあるが大半は小生でも気のつくミススベリングや文法上の誤りを犯しているのは頂けない。後学のためノートしたメモを帰国時の通関で没収されたものか手元に残っていないのは残念なことである。

コーチ制の確立を

新 12
B
武 政 英 幸

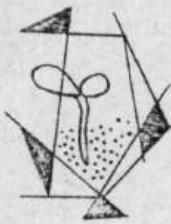
六甲台の合宿にはじめて参加すると、植中さんというコワソウナ方が、プールサイドで太い声を張り上げておられた。一年坊主は腰をおろして、上級生がランバスマッシュ練習やフオーメイ

ションをやっているのを、手持ぶさたで眺めていた。私もその一人だつた。日頃は一段上に見える先輩連が、まつたくいいなりになつていんだから、最下級生にとつてこれほど愉快なことはないかつた。我々は心の中でパンザイを叫ぶと同時に、二年生以降の水球練習に不安を感じたものだつた。練習は、旧三商大戦の完全優勝を目指して行われていると聞かされ、又、戦後はまだ完勝しなかつたし、上級生もいつもより引締つて見えた。この年は直前になつて、レギュラー二人に故障があつて惜敗した。四年は、植中さんに加えて武内さんがコーチに来て下さり、皆必勝の意気に燃えて練習に励んだ。当日に意気込み通り、完全優勝を手中にした。この年、二年生になつていた我々は、まだほとんど競技に専念していた。巻き足は壁ボールはしていたが、一向に興味がわいてこなかつたし、シンドイものだという感じで一杯だつた。当時の方針は、目前の旧三商大戦完勝だつた丈に、下級生まで手が回らなかつたのは已むを得ない。責任の大半は、下級生自身の消極性に帰すべきだといえる。

それ以後、二年間我々は水球をした。残念な事だが、オ前ラノハナア、マリアンピヤソ、といわれる段階を脱し得なかつた。植中さん、武内さんは、試合の前には来て、練習を見て下さつた。お蔭でこの三年間、一橋大に勝つてゐる。だがこのまゝでは、いつまでもマリアンピの域を脱しそうにない。立命館を破つて全日

インカレに出場しようという現在において、マリアソビの域を脱するためには、植中さん、武内さんにいつまでもオンブしているのでは駄目だ。我々浸泳会員の中からコーチ陣を形成して行かねばならない。先輩諸賢にコーチ陣確立のための名案を考えて戴く様お願いすると共に、今年是我々十二回生が極力ブルサイドで頭張り、コーチ陣確立期の捨石になる覚悟でいることを記しておく。体力的に現役に近くて好都合だし、理論的を面では、植中さん、武内さんに教わつて行くことで補つて行けると思う。私の提唱するのは、単独コーチ制でなく、複数のコーチで、各人の負担を軽くする方法である。このコーチ制については、田口先生も強い関心を示しておられる。自分自身で、最初の二年間の水球練習の態度を残念に思う丈に、コーチ制の確立が部内に於ける水球啓発の一助になれば幸いに思う。

最後に、古林・山田・田口の諸先生ならびに諸先輩に在学中の御指導を感謝し、今后も同様に、御鞭撻下さるようお願いいたします。現役諸君、今シーズンもしつかりやつて下さい。私は六月中旬まで倉敷工場勤務ですが極力顔を出すことにします。



シーズンの頂点は いづこにあるべきか

新 12
鈴 木 正 彌

我々の水泳部のシーズンは、四月頃の温水プール合宿から、月見の宴」まで、五ヶ月余りである。この間、シーズン初めの温水プールで昨年の域にまで近づけ、七月才一日曜の市大戦に備えての一次合宿。七月才三日曜の旧三商大戦に備えての二次合宿が息つく暇もなく続く。例外なく、この二次合宿は炎天の連続で、さも冷たい六甲台プールも三〇度を超すことになる。好天に加え、伝統の戦を前にしての合宿は、緊張がみなぎり、よく統一され見事なものである。過去四年間、シーズンの頂点は二次合宿とそれに続く旧三商大戦であった。先輩の方々も陣中見舞に多勢の人がきて下さるので、いやが上にも、盛りあがってくる。水泳部活動の旺巻である。旧三商大戦を区切りとして、バトンは三年生にわたり、最高に調子のできた四年生は、一応才一線を退く。そこで夏休みに入り、一ヶ月後の三次合宿まで皆郷里に帰る。この約一ヶ月のブランクが実に痛く、神大水泳部の今後は、こゝをどうするかにかかっていると思う。そして新しいキャプテンの下に関西インカレ、近体を戦つて、シーズンが終わる。これが過去

四シーズンのアウト・ラインであり、しかも注意すべきは、ここ十数年来の行事であつたということ。一シーズンを二人のキャプテンが統一することは、首尾一貫を欠き、特に新キャプテンの下での関西インカレ等の戦績の責任の所在が曖昧であることは、大いに問題である。バトン・タッチを旧三商大戦の終了時にすれば、九月の全日本学生選手権は誰が狙うのか。バトン・タッチは九月の「月見の宴」にするべし、というのが私の見解である。

今、我々の部の現状を直視しよう。競泳をみれば、こゝ四年前で、神大は関西国公立の王座からすべり落ち、阪大・京大・大阪府大等に追い抜かれ、その凋落ぶりは惨たんたるもので、関西インカレでは三部落ちの危機にある。私が入部する前は、一部にいたという。信じられない気がする。この著しく弱体化した競泳陣が旧三商大戦では、一昨年を除き常に優勝している。伝統の定期戦は大事である。しかし我部の将来を考へてみるに、その目標を全国征覇におく方が望ましい。関西国公立戦、全国国公立戦、関西インカレには、各地から猛者がワンサとやつてきて、やりがいがある。夢が大きく、楽しみだ。それにもかかわらず、シーズンの最大目標を旧三商大戦においてきたのは、一橋の水球に勝つためであつたようである。植中氏をコーチに迎えて既に五年。氏は事業で忙しく、最近はなかなか来ていただけなのが我々の悩みとなつてゐる。水球の比重はこゝ数年、めつきり増え、競泳をしなく様になつてきている。そのかいあつて、こゝ三年間に水球で

は三連勝し、完全優勝を二回成し遂げている。といつても、昨年の一橋は関西水球リーグ三部の最下位というから、関東のピリである。もうこゝらで、一橋を目標にするのではなく、九月の全日本学生水球戦に出場して、神大の名をまず水球の面から全国に知らしむべきではないか。そのためには、立命館を破つて、関西の覇者となることが必要である。打倒立命はこゝ数年来の合言葉だつたけれど、徹底していかない。こゝろみてくると、不振の競泳、発展を伺う水球の両方共、その目標は旧三商大戦ではなく、全国征覇にあるべしと確信する。折りも折、学舎は統合され、新しいブールが山田部長の努力でゆくゆくはできると聞く。

かゝることは、武政キャブとよく話をするのであつたが、言うは易く、行なうは難きことである。シーズンの頂点は、八月から九月の暑中にあることが、泳ぐのにも最適である。そして、全国国公立戦や全日本学生水球戦で優秀なる戦績を収めて、「月見の宴」あたりで、バトン・タッチをする。これは一つの夢であるかも知れないが、いよいよ卒業するとなると、反省されることも多く、果たし得なかつた数々のことを、現役の諸君に期待するからに他ならない。熱と勇気と智ある現役諸君の働きはいかに。神大水球部の建て直しと発展を考へて欲しい。



無 題

新 12 回 滝 沢 章 三

・青春・やけに感傷的な言葉が出て来たが、大学を卒業するに
当つて感傷も又よからうと思ふ。青春と云う言葉を聞いて連想さ
せられることは、若さ・情熱・希望・等々ある。失敗したと
氣付いたらやりなおすフアイト。青春はまさに人生の花である。
我が青春がいつまで続くか知らぬが、すでに始まつていることは
事実である。・大学の青春・、巷に流れる言葉だが、それが大き
な土台となつて青春が構成されていることは否定出来ないだろう。
そして大学を卒業するに当つて多少感傷的になるのもあながち不
思議でもない。我が大学の青春からは、勝利・なる言葉は出てこ
ない。

今にして思えば敗北の連続であつたような気がする。しかし希
望があるところを見ると無駄な敗北ではなかつたらしい。水泳部
が、と云うより水泳部の仲間がこゝに居るといふことがどれ程大
学生生活を豊かにしてくれたかを今頃氣のついた大馬鹿者のひとり
ごとである。部の発展を祈つてやまない。

近 況 報 告

高 15 白 山 源 三 郎

今でも暇を作つて泳ぐ様に居るので現役の諸君といくら
も變つていない氣持ちで居るが、現役の諸君から見れば博物館的
存在と見られている事だろうと思つてオカしくなるのが今の感懐
の一つです。時々泳いで居ります。

学 1 小 山 賢 之 助

後泳誌に原稿を書いてくれという依頼は毎年貰つて居るが、誠不
精者のこととて、原稿を書くのは苦手、今回往復ハガキに書けと
いうのは誠に結構、今後も同じ様に願います。私だけでなく皆様
にも左様御取り計下さい。私は目下日本水泳連盟の常任監事
で連盟本部と強化本部の会計を見ているが、昔、僅かな金で金メダ
ルを取つた水泳日本がこの様な大きい補助を受けながら、金メダ
ルの望み少ないのはどうかと思ふ。人間貧乏な方が精神力が出來
るのではないかと思ふ。昔の落語に「えゝとこの子は弱い。あん
たは達者やなあ」という一句があつたが、別に好んで貧しくなる
氣はないが達者でありたいものだ。

学 9 中 村 市 治

我々同期生は馬令五〇に達しても未だ出世の部類に入らないのは一体どうしたことだろうか。子供達には「勉強もせずに水泳に熱中したためだ」と欺し戒しめて来たが、これも何時までも通用せず脳味噌の不足を冷笑される淋しさだ。

人生は只一途に真面目なばかりでは出世出来ないものだと言ふことを今更やり直しのきかない老年になつて始めて知つたけれども今から権謀詐術のまねをして少しでも世の中に浮び上がりたくとも思わず、青春時代に六甲のプールと漫泳の雰囲気の中に育成された美しいエトパスを一生持ち続けたいと念じています。

皆々様の御発展と御活躍を祈ります。

学 10 前 田 寿

漫泳会の方々には全くご無沙汰しており相済みません。

変らず川鉄に居りますが仕事の方は昨年一月より長かつた経理部を離れて株式会社を見えます。代行会社に委ねておられない為、二十五万人の株主さんを相手に一〇〇名以上の部員でその半数が女子とあつて若がりにはこの上ない職場です。毎日、海千山千の証券屋さんとの交渉で良い勉強しております。12回の稲木さんが山叶証券におられるので、其の内良い智慧を拝借に行こうと思つております。

昨年は増資P・Rの為全国を歩きました。福岡では印藤さん(十三回)、広島では古川さん(十三回)に会いました。何れも大活躍でした。熊野さん(十二回)は入院されていました。水泳の方もまだ泳いでおり、社内大会では背泳で一位、二位を獲得しております。もつともタイムの方は言わぬが花でしょう。

学 11 平 井 洋

御承知のように大阪商船は三井船舶と合併し四月一日から「大阪商船三井船舶」として発足することになりました。

早いもので卒業してから二十二年余りの月日が流れ、はや「四十八才の抵抗」を感じる年となり、一日にポロの試合を五試合もやるようなスタミナを全く失つてしまいました。あの時代に鍛えたフアイトは今も失わず、微力ながら日本海運の再建に中身のエネルギーを傾注しております。兼松の森さん(才十回)と銀座のバーでお逢いしましたが、先生の方が僕より若く見えるとホステスが云つていましたから先生のお元気の程お察し下さい。

学 12 上 田 宇 一

漫泳会の会報の事で色々御世話をかけております。

家族名は妻・芳子、長男・正夫、次男・和男、母・リエ
毎日自宅より大阪へ通勤致しております。荻野兄とは近くよく逢う程度で同窓の方には余り逢えないのが残念です。漫泳会の会合

もなるべく出席致したく思つておりますので連絡お願い致します。

学 13 古 川 富喜男

住 所 広島市高須町山手一区一〇五三

勤務先 東洋工業株式会社

家 族 妻、長女、次女、母

小生現在東洋工業の外注部を担当しています。一二〇一三〇の外注工場の納期、品質、コストを追つて毎日難問題に頭を痛めているのが現状。当社にも水泳部がありその部長をやつていますがこれも名前だけで殆んど顔を出すことなし。私自身この二、三年は夏でも水につかつたことがなく、全くお恥しい次才です。しかし気分は殊の外若く、健康も病氣らしい病氣をしたこともなく、やせているが人並みより丈夫と自分では思つています。これも学生時代に水の中で鍛えたおかげと、その頃のつらかつたことが有難くなつかしく想い出されます。気分が若い証拠には、三、四年前に先ず軽免許をとつて私の会社のキャロルを買ひ今でも毎日キャロルで通勤していますが、この度さらに一段上の普通免許に挑戦、自動車教習所に通ひ、回数券を五冊ばかり使つてこの程見事パスしました。私がさつそう（？）と普通車に乗つてとび回る日もそう遠いことではないでしょう。

学 16 三 宅 林

最近スツカリ白髪が増えました。それでも一昨年南米へ出張した折セニオリータにムチャチャヨ！ ムチャチャヨ！ と呼ばれ氣を取直したこともありました。水泳は相変わらず好きで、件の時、大西洋の大波で一泳ぎし、帰りにハワイでも一泳ぎした次才。冬には専ら畳の上で寒泳の句などひねつています。（別掲）

家族は妻及び長男（小5）、次男（小2）。

学 16 山 崎 健 吉

日商K・K機械才一部勤務、サハラ砂漠での生活四年七ヶ月、最近漸く足が地に着きつゝある様を感じてです。水泳で鍛練したお蔭か病氣らしい病氣もせず。子供は三人。

学 16 石 井 喬

誠に頼りない先聲として慚愧に堪えない気持で何時も御案内状を頂いて居ります。卒業以来十年間群馬県の山中で過しましたので河童が丘に登つたようなもので、水に親しむことも稀です。然し水泳部に対しては限りない懐かしい気持で一杯です。

学 17 武 内 信 一 郎

神戸に勤務して居りました頃からすでに十二、三年経ち、神戸

滞在期間の方が長くなつて居り水泳部との関係も寄付の時マナー
ジャーに面談する程度で申訳なく思つて居ります。千葉 転勤の年
以降は仕事に追われプールは勿論海にも余り入つたことなく、ま
るで陸に上つた河童と云つたところです。今では担当職務の關係
で始めた棒振りを時偶する程度で稍運動不足の様です。夏にはそ
れでも長男にベランダに設けたビニールプールで、水泳のコーチ
をして居りますが、親に似合わず水が大嫌いでもう上達しそり
にありません。全然、かなづちのワイフの遺伝かも知れません。
時々神戸に出張しますが、矢張り車窓より眺める六甲台付近は懐
かしいものです。機会あれば神戸で大いに飲み明かしたいもので
す。先輩の皆様によろしく。

学 17 吉 村 武 徳

石炭産業は毎日大変です。日本経済が上昇していることは誠に
よろこばしい事ですが、基礎産業を犠牲にしては、あんまり芳
しいものではありません。北海道に來ましてから五年になりま
す。お蔭で水泳は全く速くなりました。それでも年に一度だけや
つています。冬の雪風景、夏の乾燥したすがすがしさ、全く良い
処です。皆様も来道の節は御立寄り下さい。

学 17 山 越 重 義

五年前大阪本社へ帰り、宣伝課長三年、テトロン販売部フイラ

メント課長二年、現在同販売部次長として稍々ゆつたりした気分
です。運動の方は年と共に心臓が心配で水からは遠ざかり、専ら
ゴルフ、但しハンデーは26、一向に上手になれません。水泳部時
代の水泳と同じ運神不足。

学 17 伊 藤 一 郎

三十四年と三十七年に二度も大腸を手術しました。現在兼松に
務めています。小原祥男君が小生と前後して米國に駐在していた
關係から話が弾み、実は小生柔道部出身ですが時々水泳部の方へ
も応援を頼まれ出場したこともありその様な話から知らぬ間に凌
泳会へ入られた次才。予科で泳いだ人達を知っている位です。

先日現兼松名古屋支店長の清川氏(オリンピック)に「それで
は君は野村君の後輩だね」といわれ、后で当社の現ロンドン支店
長であることを知り驚いた様な仕末です。既述の様な身体上の都
合で水泳は全くやつていません。さしづめ小生は会友なり準会員
だと思しますので、その点はどうかよろしく御配慮の程を。

学 18 小 西 信 次

昭和三十年東京へ転勤以來諸兄に御無沙汰申上げて居ります。
次才に水に親しむ機会から遠ざかり毎年夏に房総にて海水を浴び
るのみにて慰めて居ります。何時か六甲台のプールへ行つてみた
いのですが。

御無沙汰しております。

学 21 小 平 喜一郎

昨年十月初旬岡山支店に転動になりました家族四名引纏めまして岡山に引越して来て居ります。毎日ノルマの数字に追いつてられて馬車馬の様に多忙な日常を送つて居ります。生れて始めて住んだ岡山も半年近くになりますと、住めば都と云うわけで漸く慣れて来ました。毎日会社まで所要時間三十分位の処を市電にて通勤して居ります。会社の所在地は岡山駅から五分位の所にあります。岡山会館ビルの四階にありますので直ぐ分ります。当方に御用のある場合は御立ち寄り下さい。

学 22 石 井 義 章

四年半程尼崎営業所で悪名高きスモッグと泥の中をスターターで走り廻つていましたが、昨年四月から又神戸支店へ帰つて来ました。現在は新種保険の営業を担当しております。目下の処自動車保険が主力で、こう事故が多くては忙しいばかりで一向にもうかりません。

子供は昨年六月三人目が生まれました。長女はこの四月から小学校へ上ります。下二人が男です。カッパの子らしく水へ入るのが大好きで、この間も風呂で手をすべらせ潜水の練習をさせました。妙な行きがかり上復泳会の幹事を仰せつかり会のお世話をさし

て頂く事になりました。どんな事になりますか、とにかくやれるだけやつてみようかと覚悟しております。皆様の御指導と御援助をお願い致します。

学 22 中 井 三 郎

家 族 昭和三十二年結婚、家に一男一女あり。

昨年五月よりゴルフに興味を持ち日曜日には世の例外ではなく妻は後家となつて居ります。ハンデイ²⁹、未だゴルフの部類に入りますが御教授下さる方があれば喜んでお伴致します。得意先との交際の関係上どうしても多趣味となり、本年中にゴルフ²⁰、玉突二本、スキー二級を目指して大いにはりきつて居ります。

専 1 今 井 政 一

シーズンオフとは申せ今年はオリンピックの年でもあり、試合日程の都合で皆様も早々とコンディションの調整に取りかかりの事と存じます。オリンピックにあやかつて今年が良い記録を樹立されませう様お祈り致しております。

専 1 衣 川 明

小生何時の間にか二女の父となつて居る。何時も復泳会よりの便りを手にする毎に当時の若い元気を思い出しそれから当分は公私共にハツスルするを常として居ります。

会社がサウデイ・アラビア相手の輸出専業であり、現地へ富山のマンキンタン売りとして乗込む事もあり、現在祭りの前として多忙な日々を送つて居る次才。卒業後数年間は水に親しむチャンス多かれど此の二、三年は皆無と言うなさない話です。

専 2 前 原 俊 夫

長女が今度四年生になり次女が幼稚園に上る様になりました。子供の成長を見て今更の様に六甲台を巣立つてからの長い年月を感じます。

平素は身も心も非常に若いつもりで、先月も一期上の石尾、衣川兄、同期の田上、辻君と一夜を宝塚で鯨飲鯨食し、学生時代に帰つた様に怪気炎を上げました。皆感慨さつそうたるものがあり、正に夫々快調のペースと云う所です。

新 1 関 山 道 雄

☒ 学校を出て十一年、ずつと日本経済新聞大阪本社で、見出し屋稼業・(編集局整理部勤務)に精出しています。俳人や川柳作家なみとはいかぬまでも、限られた字数で内容を表現することに神経をすり減らし、レイアウトでなけなしの美的感覚に打ち打ちそのうえ、時間との競争でドタバターだいがくたびれてしまいました。水泳は一夏に二、三度、スキーはシーズンに一、二度が精一ぱい。暇があれば寝ころんで本でも読んでいる方が楽しいよ

うになりました。

☒ 結婚して三年、世間なみの女房(五体がそろつていという程度の意味)と平々凡々、惚れもせず嫌いにもならず過ごしています。こどもは一人。満二才になつたばかりの坊主です。親爺に似てか、なかなかの腕白小僧です。男の子が生まれるなら一人、二人欲しいのですが……。

新 3 友 繁 忠 男

内地は極寒の候と存じます(三月中旬に郵送されてきました)。小生本年正月早々世界の西の端西アフリカ、ナイジェリアの地に赴任致しました。アフリカ美人がウヨウヨしている土地です。毎日三十七度~三十八度、湿度九〇%~一〇〇%と云うひどい所人間以外猛獣も住まないという所です。

丸紅飯田ラゴス出張所

P. O. BOX 317 Lagos Nigeria

新 3 堂 一 本 直 正

毎日無沙汰にてたよりなき先聲として恥じている次才。小生三十二年三月工学部機械科を優秀なる成績で卒業し、三冷社なる中小企業に就職、冷暖房設備の設計工事に従事。三十六年八月京都支店に転勤。三十五年十月結婚し住居も京都に移り、三十七年七月長

女誕生、現在に至る。

満三十一才の誕生日を過日迎え、完全なるエブリマンになりました。酒は晩酌一合半、外で飲むことは私用公用共に月三回位の良きおとうちやんです。

尚、現役諸士に工学部生多いらしいが小生の勤務せるポロ会社に勤めてみようかと云う人あれば大歓迎。

新 4 富 岡 道 雄

入社以来本社人事課勤め、他に能力がないので他の部署で使つてくれない。賃金、労政、人事、採用、教育、何でも少しづつかじつてゐる。必要に応じて在阪浸泳諸先輩に人事関係のネタをお願いしてゐる。

昨年夏米国へ短期留学、学校での勉強はともかくとしてニューヨークで渋谷兄（日商新三国）、シスコで今枝兄（大同海運新1回）の浸泳先輩を師としてウイスキーとビールを飲む方の勉強にはかなり成果があつた。渡米時に水泳パンツだけは忘れず持参、コロンビア大プール、ワイキキでトレーニングに励んだ。

毎年七、八月は会社近所の小学校のプールを借りてトレーニングしてゐる。昨年度ベストタイム五〇米三〇秒〇。

このところ浸泳の会合をサボルこと多く、申し訳なし。

大阪中之島近辺へ所用でお越しの浸泳先輩、後輩諸兄、おひまな節は新朝日ビル七階の小生の事務所へ立寄られたし。トリス・

サントリ・バーなれば御案内可能。

家族 妻一人、長男四・五才、次男〇才、住所 阪神鳴尾

新 5 岡 田 昌 三

卒業後三年でサラリーマン廃業、羅紗問屋（紳士服地）の長女と結婚、家業の見習を始めやつと現在の名前と商売になじんだ所です。三代目のジnkスを破らねばと積極経営・多角経営にダツシュしてゐます。とりあえず岡田家始めての長男誕生（満二才）して大いに株を上げました。水泳部の後輩が徒草に立ちよつてくれますが家内共々楽しみの一つです。

大先輩の三宅さんに手ほどきを受けて昨年七月からゴルフを初めました。人の顔を見ればゴルフを薦めてゐます。是非専ら泳でコンペをやりたいものと考へてゐます。

新5法 松 田 司 朗

繊維問屋に職を求めて早や七年の年月が流れてしまいました。その間、一度も好況なるものに遭遇した事もなく従つてポロ儲けなるものをした事ありません。幸い内地部門に支えられて命脈を永らえてはおりますが、輸出となると聊か悲観材料なきにしもあらず寧ろ多いようで我ながら心許なき限りです。本年こそは窮鼠を嘯む思いにて阿修羅の如く雄叫びてやつてみたいと思つてゐます。家庭は長女が満二才、至極円満にて健康そのものにて暮し

ております。

新 6 阿 部 雅

新婚ホヤホヤです。ハネームーンは南国九州へ。折からの寒さで桜島でも雪を見ましたが二人の熱気にあてられ雪もとけたとか。社内では昼夜を分たず労務の阿部として雷名をとどろかして居り賃金論の権威でもあります。

新 6 高 橋 靖 周

ご無沙汰致しております。

昨年夏大分に帰り目下本店秘書室勤務で未来の頭取学勉強中です。

(岡見氏の観測による)

新 6 岡 見 晴 児

古巣の神戸に帰つて一年数ヶ月。水を得た河童の如く公私共に大張切です。

新 7 柴 川 泰 介

不運にも腎石の為二月末より入院生活をしています。四月中旬には退院できます。

小生昨年火災で工場を失いましたが、現在約四〇〇坪の工場を建設中です。

新 10 竹 元 忠 彦

太 田 齊

都落ちして早や六月、失敗の数と、体重はめつきり減った。

人間の多い事と空気の汚なさには閉口、時々六甲を想い出しては太田の所へ行く。精彩のない毎日だと云うが、山梨県辺りの温泉に孤り旅するところなんか、なかなかどうして。

(竹元氏記)

新 11 窪 田 信 雄

皆さん その後元気でやっていますか。小生も相変らずです。

ひよんなことから教育界にこの身を捧げて(というほど大げさなものではないですが)早や十ヶ月になります。

専攻の法律と教育との接点を求めながら、相変らず教壇の飾りもの存在から抜けきれず、根つからの話しべたがわざわざいして、しどろもどろの授業をやっています。若い連中が相手ですので、年はとつても精神年令は若くなる一方のようです。

六甲のプールで水と戯むれていた頃は、それが将来どんな役に立つだろうかなどとは考えてもみなかつたのですが、こうした職についてみますと、水泳部生活三年間の経験がいたるところで役に立ち、ほんとに良かったと思つています。団体生活、共同生活の中での自分の役割、又、そうしたものの指導、団体生活の中で人間関係、人を統率しまとめて行くこと、更には三年間鍛えた

体と水泳が大きくものを云うことがしばしばありました。

この夏にはこの学校でも校内の水泳大会があり、五〇米平泳に四〇秒二の大会新記録で優勝、他メドレー、リレーでも職員チームのエースとして活躍、正月の校内マラソン大会では一万五千米を走り陸上部の連中と肩を並べて十位に入賞、又、先日の剣道大会では職員チームの大将として大いにハッスルしました。

若くて、何でもやれるときには大いにやつておくものだと、つくづく思いました。

現在運動部の方では、陸上競技部の顧問兼コーチということでこのところ毎日曜日、駅伝大会の監督として、あちこち出歩いています。

四六時中が仕事のようで、何となく暇がなく、六甲にもさつぱり御無沙汰で申し訳なく思っています。山田先生、先輩の方々によろしくお伝え願います。

新 11 荒 井 康 之

沖電気・電子計算機課勤務、場所は虎の門。三月から鈴木兄も同じフロアーに来てプログラムの仕事をやることになりましたので連日麻雀ではないかと大いに心配しております。

社内では仕事の鬼と言われていますが女性の反応が未だ顕れませんが唯一の気懸りです。

今年はまだ一年本店にて営業ですが、来年あたりは大阪あたり

に転動じやなかりうかと思えます、上京の節には是非御寄り下さいますよう。

新 11 夏 見 昭 次

彼は佐伯建設東京事務所勤務、課は詳しくは分らない。場所は赤坂溜池、私の処から歩いて五分と掛らないところで、彼のビルから私のビルが目の前に見えます。この間も十一時頃、兄が虎の門のバチンコ屋から出て来る処にバツタリ出逢いました。林兄とは全く対照的に暇そうです。「オス、荒井仕事か?」「オ、お前こんな時間に会社さぼつて何してるんや」「バカ!! さぼつてないワイ、銀行に金を持つて行つたんや」「ウソツケ!! バチンコ屋から出て来たんやないか」「へへ: チョットやつた文や、アカンワ東京のバチンコ入らへんわ」: : : てを調子です。兄は全く変つていません。(荒井氏記)

新 11 林 莊 八 郎

サントリ(株)ビールオ二販売課勤務。日本橋栄太楼ビル二階。オ二販売課とは小売店相手だそうで、別にオ一としてバー、飲屋相手の販売課が有るそうです。林兄には二、三度しか会つていないけれど電話にていつも元気ハツラツたる声を聞かせてもらつています。仕事の関係で日本橋に行つた時は一応多忙風です。つい最近も受付で次の様な会話を交して来たところでした。

「林さんいらつしやいますか？」「ハイ少々御待ち下さい。林は唯今会議中でございますので」「イヤそんなら結構です。又来ますから」「イエこの間もいらつしやつて下さいましたのに、是非呼んでまいりますので」 受付嬢奥へ引つこんだのはいいが三分程して「アノー林会議室に見えませんでしたので…すみません」 林兄は誠に多忙らしく結構なことです。一週間前に峯温泉に旅行に行つてきたとのことです。

(荒井氏記)

新 11 鈴 木 剛 弘

沖電気・八王子事務所電子計算機工場生産課勤務、この三月からプログラム課に栄転の予定。

兄は変らずの大食漢で、同僚の驚異的的です。寮の食事でさえ最近では四キロ肥えた程の健胃振りで年中赤ら顔をしています。兄の変つたところといえば麻雀が強くなつたこと丈です。水泳部時代には片リンさえ見せなかつた関西人のド根性丸出しの麻雀にはさすがの寮の連中さへ驚いています。通称「ド鈴木」。「ド」は「ド根性」の「ド」か「リーチ・ドンドン」の「ド」かはさだかには分りません。最近では「荒井はカモダ」とか云つてゐるそれで大した進歩ですが、やつてゐる途中で「クソめ!!」とか「ウーン・ウーン」と熊みたいな声を出すのは一流の風格とは云えませぬ。

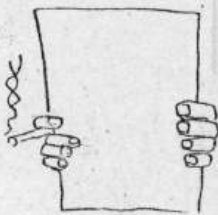
兄は東京にても相変らずダンスにうつつを抜かしている様で、

パーティー券の大売出しがあればオ一に買うのが彼、専ら工場の無知な娘さんを誘つてはニヤニヤしているが、これはプライベートな問題ですので省略。

麻雀をやる日は二時頃まで、やらない日は十二時すぎまで皆でキワドイ話ばかりしていますので、兄も私もあまり女性関係の正常な発展は望めそうにありません。

東京に出てきた時は兄に新宿のトルコ風呂を案内してもらつと楽しいでしょう。八王子工場での遅刻ベストテンオ一位。

(荒井氏記)



凌 泳 会 の 部 会 計 報 告

昭和38年度収支決算

昭和39年度予算(案)

収入	前年度繰越金	1,200
	凌 泳 会 費	179,500
	会 合 費	15,000
	計	195,700

収入	前年度繰越金	1,000
	凌 泳 会 費	200,000
	会 合 費	25,000
	計	226,000

	凌 泳 発 行 費	19,535
	水 泳 部 援 助 金	114,000
	通 信 費	16,156
	交 通 費	11,175
	印 刷 費	670
	会 合 費	30,650
	雑 費	2,514
	次 期 繰 越	1,000
	計	195,700

支出	凌 泳 発 行 費	23,000
	水 泳 部 援 助 金	147,000
	通 信 費	15,000
	交 通 費	10,000
	印 刷 費	600
	会 合 費	25,000
	雑 費	5,400
	計	226,000

水 泳 部 の 部 会 計 報 告

昭和38年度収支決算

昭和39年度予算(案)

収入	前年度繰越金	7424
	凌泳会援助金	114,000
	部 費	258,760
	育友会援助金	38,000
	会 合 費	57,600
	ユニホーム代	77,000
	雑 収 入	8,500
	計	561,284

収入	前年度繰越金	4,499
	凌泳会援助金	147,000
	部 費	330,000
	育友会援助金	35,000
	会 合 費	50,000
	雑 収 入	20,000
	計	586,499

支出	水連加盟費	2,500
	試 合 費	62,555
	合 宿 費	272,034
	交 通 費	12,860
	通 信 費	7,048
	会 合 費	63,886
	設 備 費	24,802
	記 念 品	8,250
	燃 料 費	6,460
	医 療 費	5,520
	ユニホーム代	80,400
	オリンピック券	3,500
	雑 費	6,970
	次 期 繰 越	4,499
	計	561,284

支出	水連加盟費	3,000
	試 合 費	50,000
	合 宿 費	400,000
	交 通 費	12,000
	通 信 費	8,000
	会 合 費	55,000
	設 備 費	28,000
	記 念 品	5,000
	燃 料 費	9,000
	医 療 費	6,000
	雑 費	10,499
	計	586,499

部のこと

新J13 主将 前田 和秀

私が昨年、武政前主将からバトンを引受けてから、はや七ヶ月になりますが、その間に関西国公立、今治合宿、関西インカレ、近畿国立大学、秋季トレーニングを経て今、春季陸上トレーニングへ入らんとする所です。従つて部員の練習状況、タイムなどをお知らせすることが出来なく残念ですが、昨年度のタイムをもとに予想し、今後の目標に及びたいと思います。

まず競泳では、昨年フリーロング陣を一人で背負つた小越(T1一四)が胸をやられて現在療養しています。それ故今年のロング陣を背負うのは石原(T1一三)、日野(T1一四)、手嶋(S1一四)、樋口(B1一四)等で、この中では日野が一二分を切つていました。姫路では久保(B1一五)の成長に期待しています。次にシヨート陣は、ロング陣に比べて活躍しそうです。丸山(T1一三)、宮部(L1一五)がいずれも一〇〇米一分〇五秒〇(一分〇六秒〇)は出せそうです。堤さんの穴はこの二人が充分おぎなうでしょう。次にプレスト陣、安茂さんがぬけて残るは山口(T1一三)、阿部(T1一五)、それに姫路の上原(S

1一五)、橋田(T1一五)、安東(B1一五)ですが、一〇〇米の泳者を作ることを目標としています。山口、阿部、上原等がやりそうです。バック陣は前田(J1一三)と木下(B1一四)ですが、国公立、インカレでは通用しません。一〇〇米のスピードをつける事を目標とします。最後にバタフライ陣、武政さんがぬけて大きな穴がほつかりました現状ですが、阿部(T1一五)一人におぶさる感じです。中畑(B1一四)の成長を望む所です。阿部は一〇〇米一分一五秒〇を軽く切る実力を持っています。全体として層のうすいのが目立つが新入生も入っていない現状なので、この点はいく分補えるでしょう。

次にボロ、今まであと一步の所で敗れている立命の打倒が最終の目的です。従つてボロを中心に練習計画を組んで行こうと思う。今年から学舎が御影に統合されるので、これを機会に水球と、競泳とを別個に募集し、水球専門の部員を作ろうと思つています。四年後には完全な水球単独チームが作られ、関西から全日本への進出を夢見ています。さて今年の水球は決して安閑としている事が出来ない現状です。フォワードの武政さん、堤さん、安茂さんの三名、バックスの鈴木さん、キーパーの清水さんの以上五名のレギュラーが抜けて、まだオーダーのめども立っていない有様ですが、昨年来のレギュラーとしての石原、前田、経験者の日野、山口を中心に、丸山、横田、樋口、木下、中畑、西島、手嶋、阿部、宮部などがいます。キーパーは山口、西島、阿部がやるつも

りです。フィールドでは石原、日野、樋口、宮部がかなりやりそりです。しかし各人、基礎がまだできていないので、基礎練習をみつちりやるつもりです。

なお今年はオリンピック年なので、試合日程がシーズンはじめにかたまっているため、姫路合宿を京阪神三大学戦の前に持つてこようと思つています。また神戸大学体育会で三商大戦を七月五日〜十二日の間に統合してやる計画もあります。練習は一時三十分からです。五月からは日曜日にも練習を行いますので、先輩方々お誘いあわせて御来台下さい。

今年 は

四年工学部 山 口 尚 彦

今年はポロにかけようと思う。ポロにかけるといつても、目標をどこにおけば最も有意義なのかわからないが、要は強くなることだと思ふ。水球の強さについては、僕は二通りの強さがあると解釈している。二通りの強さとは、才一に絶対的な強さ即ち、相手を問わずチームが確実にその持てる能力を出し得る場合のこと、そのチームにとつてそれ以上の事は望めない。(ただし、この場合の能力は各プレーヤーの素質を充分に鍛えて、これ以上の

力は出すのが無理という時の実力のことである。) 才二に、相対的な強さがあると思う。相対的な強さとは、只試合に勝つに要するだけの強さで、この場合、チームの力が充分出されているかどうかは問題でない。

今年のポロにかける目標として、僕は最初から最後まで、この絶対的な強さを考えながら練習していこうと思つている。

いわば無限の目標かも知れない。我々のように競泳を兼ねているクラブでは、又短かい練習期間ではオリンピックの優勝チームでも、多分達成していないこの絶対的な強さにたどりつくのは、到底無理だろうが、そんなことはかまわない。あくまで目標だからだ。一週間毎、一試合毎に、それに近づいていこうと思つているのである。市大に勝てる、これくらいならもう京大に勝てる、と思つてホッと安心するのでなく、出来るだけこのシーズン中に目標に近づいておこうと思つている。これがひいては、試合に勝つことになり、又そういう事がポロにかける事の意義になるだろう。

自分一人こう思つても仕方ないかも知れないが、僕はキーパーである。キーパーが強ければチームを強く作り、キーパーはポロのかなめのはずだ。

自分個身としては、恐れ多くも神大歴代キーパーの才一人者になりたいと思つている。

しあわせな時

種 口 周 平

アルチユー・デ・ランポー

七日この方、プールの中を、

泳ぎつづけた俺の身体

すつかりまいつてしまつてた。

三ノ宮へと今ついた。

ビヤガーデンで俺はまず

ビーナツツとビールを頼んだ、

ビールはどうやら冷えていた。

久々に俺は寒々、両脚を

卓の下にのばしたり、

夕暮のわびしい街を見下したり。

そこへあの目もと涼しく

おつばいのやけにでつかい別嬪が

出て来たのだからすばらしい。

—この女三千泳いだ位では

びくともしそうにない剛の者—

にここにこしながら、註文の

ビーナツツと冷えたビールをのせた

よごれた盆を持つて来た。

俺の額のように塩をふいた、

わずかばかりのビーナツツ

それしかないのに念入に、

彼女がビールを注いでくれた大ジヨツキ、

ネオンを浴びて七色に泡の立つこと。

もう一年たつのか

福 井 健 一

光陰矢の如しとよく言われるが、全く一年の年月のたつのは早

いものである。この間、大いなる感激をもつて神大に入学し、日野さんの勧めで水泳部に入り、ヒーヒー・言つてから早くも一年になろうとしている。思えば、多勢のサデイスティックな先輩にまじつて、よくも耐えられたものである。又同時に、そのサデリストぶりに耐えるようになった自分にも少々驚くしだいである。

去年四半ば、プールサイドへ練習ぶりを見てもみようかと何となく出て行くと、二年生に会いやいなや例の、脱げの命令、しかたなく思いきつて入水自殺のつもりで飛びこむと思つた程きびしくはない。こりやいける、面白そうだと思つていると、百米、好きな型で泳げ、との声、プレストが案で長持ちそうだからプレストで泳ぐと、二十五米までいい調子、ところが衰れたことに五十米と百米の感じがいで、五十米でダウン。ガンバレ後五十の声、思えば先輩のサデリストぶりは、記念すべきこの日より始まつたのである。百米泳いだ時には本当に満足に立つていられたかつたのである。それもそうだと思うのは、その日まで、勉強勉強で何一つスタミナのつくようなことはやつていなかつたのである。といつて自分がそれ程勉強家だとは、自分は認めていないのだが……。さて、僕が水泳部が好きになつたのは、実にこの日といつていいかも知れない。だいたい、人間の自己満足というものは、何でもいい、その人にとつて少し無理と思われるような事、多分に不可能な事をやりとげた時、大いに満たされるものでないかと思うが、まさに自分がそれを、その日に味わつたのである。

泳いだ後の言いしれぬ疲れというものは、何という満足感がある事であろうか。最初に八百泳ぎきつた時など全く何とも言えぬうれしさであつた。最も後にこれは、ベスト欲に変わつていつたが。それ以後、二百、四百、八百、型もプレストはだめだといわれフリーになり、そして姫路合宿、三・四年生、御影生との対面、そしてコンバ、このあたりで、水泳部の部としてのふんいきにも慣れ、又その歴史、伝統及び先輩とのつながりを知り、大いに驚き且つは大いに誇りをもつたものである。それ以後、ベスト、ベストと頑張つたが、自然が与えてくれたこの体、どうしても人並にれないで三次合宿も終つてしまつた。今は、陸トレ、来シーズンこそは、何とか我が人生のベストをと、毎日皆と練習にはげんでいりたいのである。なお、今年で姫路分校もいよいよ最後であり、今年是一年生が入つてこない。自然気もゆるみがちだから、そこをぐつとひきしめて、井の中の蛙、にならぬよう、有終の美を飾りたいと思つている。先輩諸氏のコーチ、声援をお願いする次才です。

ユニホーム雑感

8 15 上 原

剛

「凌泳」の原稿を冬休み中に書いておくと福井から言われた時、

今度は逃げられないだろうと直感していさぎよく、こうして今書き始めたわけですが、いざ書くとなるとなかなか……いろいろな考えた末、今度新しく出来たユニホームについて書く事にしました。雄感と書きましたが、実は一感でして……

ユニホームは色は濃青で、左胸に神大、左腕の肩から少し下つた所に「O」の印とそれぞれ白地のネームが縫いつけてあります。このユニホーム姫路では十一月の終り頃から陸上トレーニングに着用していますが、皆がこれを着て集つたところは、さながら忍者者の集団です。もつとも、やつている事自体、その修業を思わせますが。

ところで、初めてこれを着た日の事です。

集団外の神大生には、「己は忍術を心得たり」と言わんばかりであつたし、麗しき処女にでも出くわそうものなら、「僕はあなたの騎士だ」と胸を張り、己が注目的であるかのようなあらぬ妄想。又そこらを行きかう人に対しては「それ見よ」とばかり、胸の白き大書を押しつけているではないか。おそらく、その時は水泳部という、神戸大学という「誇り」が背景にあつたのだろう。しかし、「誇り」に応えるべく、千五百を泳ぐ時、意志力を、精神力を僕は示したか？ いやいや。しからは背景とは「誇り」ではなく、他人より上に出たいとする人間の全クイヤナ、本当にイヤラシイ本能に過ぎなかつたのではないか？ 「誇り」は「優越感」などという低級なものではない。「誇り」は「克己」の衣で

ある。「優越感」などで満足すまい。

そもそも「運動」をする目的とは何ぞ？ 言わずと知れた「克己」ではないか。「克己」などということがもう珍腐に聞える、そこまで使い古された言葉「克己」の為ではないか。そうだ。「他」を一切意識することなく、唯ひたすら自己だけを相手とし、これに克つ事だ。隣りのコースとせり合う時、相手にすりつと前へ出られ、半身長もの差がつけば、脆くも脱落してしまふ。「他」だ。「他」を意識するからだ。常に己を相手とし、千五百メートル泳いだら、たまたま一着になつていた。そうだ。これだ。このまま社会に出れば、「他」の意識にあくせくし、自分の存在すら忘れようになつてしまふ。危い危い。

僕は男山の「階段上り」からの帰り道を走つていました。真赤な夕焼けに姫路城があざやかな時でした。それから、整理体操を終え、ユニホームを脱いで、ついで枯れ草をていねいに一つづつ取り、きちんとたたんでカバンの中へしまいました。

ユニホームが、僕が水泳部にあつてこれから何をしたらよいかを、且つ人生の何か重大な事を教えてくれたような気がしたからです。そして、このユニホームを「誇り」として着れる日を念じながら生協へと急ぎました。もう、日はとつぷりと暮れて、何かを争んでいるような満月前の月が、恥じらい赤味を帯び、しかし誇らしげに、処女から母への道を登つていました。

水と日本

E 15 安東賢次

水。みず。ミズ。mizu。自然と共に思い浮かべる水は語感も美しさも申し分ない。

日本の山水は四季につれて微妙な美しさをみせる。春。雪解の水がいかにも若々しく奔流する。前年の朽葉を流し、新たなる生命に目覚めを呼びかける。山桜の花弁が水面を漂う。所々にはまだ水柱も見えるだろう。猫柳に白く凍りついたしぶき。えも言われぬ風情である。夏。肌にしみいる水の冷たさ。シャツシャツという音が涼しい。木々は真夏の陽を受けて、もう遅く成長している。私も元氣よく溪流を逆のぼる。苔が水をいつばい含んで気持よさそうである。私は友人と一緒に谷合の淵で泳いだことがある。寒い程であつた。春の水はなんとなく冷たさを含んだ生命力だ。夏は青年期だろう。情熱にもえて音を立てている。夏の海水はいつこうに涼しくない。太陽を吸収し尽して、うだつている。やはり川でないといけない。溪谷だともつといい。冷いやりという感じだ。秋。静かだ。まわりが紅葉する所もある。あんまり穏やかだとかえつていけない。底にはもう落葉がたまつて来る。

あけびを取りに行つたことがあるが、やはり静かだつた。私は秋の山々は好むが水はどうもいただけない。冬。これはいい。春と比べて劣らない。水量が減つて来て石がゴツゴツ出て来る。海の砂よりはるかにきれいな砂が水を含んで、余裕のある所はまだ岩肌をぬつて控えめに流れている。どうして冬がいいかというに、厳しさがある。溪流に行つて呼んでみたまえ。張りがある。吐く息がたちどころに凍る。ピリツとする。つららが垂れるがもう解けようとはしない。淵の水は動くのが大儀だとも言ふように全然動かない。しかしこの厳酷な冬の水も、太陽にはかなわない。じつとほほえみかけられて、ピリツと割れて来る。やがて：つらが解け、キヤアキヤアさわめきだすと春になるのだ。

日本は海に囲まれている。つまり水に囲まれている。日本の電力は水が起しているのだ。日本は稲を作る。水が要る。工場地帯にも水が要る。一年に一度は水の怒りに出合い日本は迷惑顔をする。梅雨などといつて水がやたらと供給される。織物や和紙はまさに水さまがよくないといけない。サントリーが山崎の地に出来たのは水が良質だつたからだ。

ところで、近頃河川の水はどうか。工場が廢液を流す。皆がゴミを投げこむ。下水は容赦なく無造作に川に注ぐ。魚がいなくなつた。泳げなくなつた。近くの海水浴場は大腸菌でいつばいだ。

東京は給水せんとダメ。

私達をもつと水を大切にしないといけないのではないか。日本

が水泳王国であつた当時、日本人は川や海をもつと大切にしていたのではなからうか。

無 題

E 15 久 保 佑 四 郎

今年はオリンピックも日本で開催されますことですし、何よりもまず大いにハッスルして泳ぎたいと思います。

姫路の水泳部の方はいよいよ今年で終りです。最後のしめくくりの意味もあり、諸先輩の築いてこられたすばらしい伝統を出来るだけ多く身につけて有終の美を飾れたら無上の喜びです。当然のことながら、練習にあつては常に旺盛なるフアイトを以つて力の限界に挑んでゆきたいと思つております。

四年間のうちで恐らく最も好条件に恵まれたジュニアの三期のシーズンを悔いの無いよう過したいものです。

昨シーズンのことを思い出すと腑甲斐のなさに全く冷汗の出る思いをすることもしばしばです。八百泳ぐのに三百ぐらいからもう浮いているのが精一杯で、プールサイドにつかまつて一息入れようとすると、上から「コラッ、向うへ行つてから休め」と叫鳴られるし、何とか二五メートル泳ぎ、向うのプールサイドにつか

まると、又「此方で休む奴があるか。向うまで行くんだ。」これでは結局休む間がなくてボウフラみたいにヨタついていた次第です。

こんな新入りを引張つて行つて下さつた先輩は又とない忍耐力の持主じやなからうかと想像して見ることもあります。しかし、ともあれ三次合宿になつて自分としてはやつと芽が出かかり冬の間の陸上トレーニングにも気合が入るようになつてきました。

近頃はスタミナをつけるためもう少し体重が欲しいので、金の許す限りもつばら食うことを心掛けてはいるんですが、飯代もなかなかばかにならるので、栄養があつて美味しく、しかも安い店はないものかと思ひますが、何せ商売ですのでそんな情深い店はありません。落着く先は生協のウドン、又は近所の焼ソバと相成るわけです。しかし水泳をやるようになつて良かつたと思ふことが二、三あります。普通ですと何か斯う皆から疎外されるように感じる生活にも中心が出来たと言ふか、心の打ちこめるものがあるつて楽しく過せます。その上、体が丈夫になつたということ、これで見頃は、体の事だけは親に余り心配懸けず済みます。それに練習している間は〇〇のない淋しさも忘れられますし、実に御利益は大きいものです。泳ぎ終つて寝に帰ると同部屋の人に、「オイ、今日は十秒縮まつた。明日は二十秒ぐらい縮めてやるぞ」など言ふと、「それじやお前は今に百米をマイナス十秒ぐらいで泳ぐようになる。そりや何かの法則に反すはしないか」など冷か

されたものです。

来るべきシーズンの記録的目標というものを持つておればよいんでしようが、私はまだ記録的に泳ぎが煮つまつておりませんので皆目見当がつきません。やれるだけやつてシーズン終りころには出来れば百をマイナス十秒ぐらいで泳いでみたいもんです。

先聲諸氏も、今年は一つどんどん姫路のブルサイドからハツバをかけて御指導下さいますようお願いいたします。

陸トレ雑感

T 15 由 佐 禎 男

原稿を書くのが一番気になります。

今ごろは寒いので陸トレをやることになりましたが、みんな陸に上つたカップで(もつとも水の中でもあまり泳ぎが上手でないが)みてはすかしいほどです。みんなで歩くが一番になつた奴が生れて始めてだといえます。厚くもそうだと思います。姫路は一年ばかりですが今度数人の仲間がふえて結構たのしいです。

みんな無神経のかたまりみたいな顔や体をしているので柔軟体操のとき思いきりやりますと、痛いというので始めて人並みの神経を持つているのかと気がつきます。あまりひどくやると報復を

受けます。倍以上もきつくされるので先聲の人しかつて下さいませんか。

ユニホームはいろいろ用途があつて大変有要です。これを考へついた人は大変頭がいいのだと思います。

(小学生六年でもこういう文章は書けないですよ。ましてや大学一年では……) では失礼。

雑感

T 15 福 井 洋 之

水泳部も水から陸に上つた頃、寮にいて、授業が終つて退屈な時間をもてあましていた自分に、ちようどとなりの部屋の同姓福井氏より水泳部への再三のさそいによつて、ついに陸トレに参加した。始めのうちには入部はせず、自由練習の形で練習していたが、入部した方が良いのじあないかという気がしてなんとなく入つた。始め校庭を三回ほど走つた時息がきれるほどえらかつた。そして最初の日柔軟体操をやつたが、じつに体がいたくて二、三日はとても歩くのにさえこたえて、体をうごかすたびに痛さが感じられた。二日三日と練習していくと、走るのには慣れたが他の者に較べておくれをとる。とくに自分だけが人なみはずれておせい。

それが長距離になればよけいそうである。

僕は小学校の頃からマツトとか球技のような体操には自信があり、初めてもらったことはあつたが走るのには自信を持つことがなかつた。だから学校のマラソン大会などではいつも最後に入つたものである。しかし短距離はひとなみに走れるのであつたが、そこで練習をやつていくうちに少しづつ考えた。自分は他の者が言つていふように、自分のタイムを更新するとか、あるいは選手として記録を出そうというようなことは考えないで、水泳部を通して自分の体をきたえていく、それだけでいいのではないかと。まだ水泳部に入つて一度も泳いでないのでほんとうの水泳部の姿を知らない自分であるが、四月からの水中活動には出来るかぎり参加して無理をしないようにやつて行きたい。

僕泳にのせる文章を書けといわれてペンをとつたのであるが、何分かんじんな泳ぎをやつてないので書くことに困つてゐる所です。水泳部生活の実質的活動は、僕は工学部なのでジュニアだけになるのがせいぜい今年の夏休みまででも、青春のひとつときをマージャンで過ごすよりは水泳をやつてすぐの方が有効ではないかと思つてゐる次才である。



入 部 雑 感

田 15 北 山 清 昭

神大水泳部に入部したとは言え、まだ六甲のプールはおるか、姫路のプールでも泳いだ経験のないこの僕です。

と言うのは、十月の陸トレから参加しました。中学以来運動部と名のつく所へ籍を置いた事もなく、得意な運動などと言うものは皆ありません。

水泳部に入部しながら、まともな泳ぎ方も知らず、この原稿を書きながらも、何だかおもしろい気がします。ただ、小さい時から良く泳ぐ人を見ると、非常な憧れを感じました。今も変わりありません。神通川にも良く行きました。神通川と書いたら御存知の方があるかも知れませんが、僕の住んでゐる所は、北国富山の又片田舎です。四才の時、満洲から引きあげて来ました。

昨年四月姫路で下宿生活を始めた時、たまたま上原と一緒にになりました。彼の口を通して、水泳部の良い点、合宿の苦しさ楽しさ、水泳部員の記録に対する情熱を色々と聞かされました。当面の目標であつた大学入試もどうにかパスし、入学以来何等の目的や意識もなく、ただ学校と下宿の間を黙々と通ひ、期末の試験だ

けを心配していた様な無気力な学生です。(この様な学生を・
・と呼び特に嫌うそうですが)。

人が一生懸命運動しているのを横目で見て、心の中で(自分も何か情熱をもつてやりたいのだが、さていざ実際に行なおうとする
と、何も出来ない自分にどこが向いていると言うのか?どこも入
る所なんかない、やはりやめておこう)といつも引つ込み思案か
ら手を出せません。

かように無為に時間を過しているのを、自分ながら情けなく、殘
念に思いながら何もしてませんでした。

同じ下宿に住んでいる者が入っているから、少しは気楽に行け
るだろうと思ひ、内心恐る恐る水泳部に入りました。誠に思かな
動機です。水泳のシーメンが終り陸トレの段階から参加しました
が、皆の練習中の態度や練習日誌に見る水泳に対する情熱に対し
て非常に感心すると同時に、僕も一段とフアイトがわいて来まし
た。激しい練習中にもなごやかさがあり、練習を終え、薄暗くな
つたグラウンドの芝生で(水泳部らしからざりませんが)シーメンを経
験していませんので)汗を流して寝ころぶ気持は何とも言えず、
すがすがしく感じます。トレーニングしながら、皆にも自分にも
負ける事のない様にはり切つています。

四月に入るといよいよ陸トレの体力を基に、陸から水に戻るそ
うですが、益々フアイトを燃やすつもりです。良く泳ぎも知らず
迷わくをかけるかも知れませんが、合宿が始まるまでにはと思つ

て頑張ります。よろしく御願ひ致します。

新年に當つての感想

T 15 橋 田 健 二

水泳部に入部してあと少して一年になろうとしています。中学
高校時代は遊びで泳いでいただけだったので、入部した当時は泳
ぐのがやつとで、千五百メートルも泳ぐとバテたものでした。そ
ういう時に、先輩達が気合をかけてくださつて、みんなについて
ゆくことができたことには先輩達に感謝しています。今思つてみ
ると、何事もそうですが、一人でやつてゆくことはとうていだめ
で、みんなの協力が必要であり、又その有難さが改めて痛感され
ました。そして先輩達がみんな良い方達なので、やはり水泳部に
入部しては良かったと今一度考える次才です。

体力についても、最初は泳いでいて体力をつけようと思ひました
が思うようにゆかず、頭を悩ましていたのが、陸トレを始めて少
しつき、今では今年はかなり自分の記録が更新できるものと思つ
ています。

入部した本心は、簡単に言えば体力の向上が主だったので、
体力が一応つきますと、人間には欲がつきもので、今度はタイム

を縮めようという気になり、これが当り前ですが、今から考える
と不思議なものです。

今年目標はまず最初から出なおしのつもりで出発し、百メー
トルで一分三十秒（ブレイ）を切ることに、これが今の目標です。
今のベストが一分三十六秒だから、それを考えると余程覚悟が必
要ですが、その気になつて、全然フアイトを燃やすつもりです。

又二百メートルではできるだけ三分に近づけることに、これが目
標です。それにボロ、これもはりきつてしようと思ひ、陸トレの
時のバスの練習などをやり、足腰を鍛えてきました。あまり希望
希望で何か楽天的にも見えますが、やはり希望は持ちたいもので、
年も改まつたものだから、大いにハツスルしようと思つています。

自然の子になる

T 船 井 汎 彦

自分の心情の方向がわからない。何故だ？ すべての確証がつか
めそうでつかめぬ……煙の様に。もつとはつきりせねば。はた
してこんな状態で一体何ができるといふのだろうか。わからない。
自殺を思ふか——確かに誰かもいつたようにそうすることはすば
らしい。今まで幾夜もそれで過ごしたといふのはその為ではな

つたか。死後の美德ばかりが異様に目について、それを恰かも傍
観者の如く考え楽しむ、それでいいではないか。自己に直接かか
つてくる創造への苦悩、無気力な経過、それらをすべて回避、忘
却でき、反して過去の美化を創造する時、そこには怠惰な享樂が
潜む。同時に非痛な思いもあるのだが。自分の死後の人間の仕草
を目に浮べ実際にそういう時の人間を観察していたいと思うのも
不思議に面白い。

けれども現在のこのいう状態は自分のみで方向づけなくてはな
るまい。宇宙よりも無限にみえが空の一点に化してしまふよう
な、こういうものは、自然に、言いかえれば自分が自然に帰つてい
くことによりそれへの全体的な視野で考えていくべきだろう。

今にも崩れ蒸発してしまふような儼の精神だ。そのつかいか
は何か、全く否定し難いのだが紛れもなくそれは自己への羞恥だ
らう。本を読んだ時に冷汗を感じる程の、そしてそれを一生くり
かえしそれに育まれていく事には可成りの必然性がある。しか
し悪魔で自然なものとしての必然性をとりたい。そしてそれら
を一切意識しないでそういう状態になつた時、はじめて自然の子に
なつていけるだろう。



河童の歩み

神大―京大 水球定期戦

五月晴と言ひ言葉がある。山野、路傍の草木が、さんさんと照輝く太陽の下にその生命を地表に泉の如く満ちあふらせ、長い冬の間耐えしのんできた命の春を旺歌する日々である。風は町から町へ吹き抜け、コイノボリが、青空に泳ぐ。それが五月晴である。

その照り輝く五月晴に今年はとんとお目にかかれなかつた。今冬の異常な豪雪は、春の異常な長雨へと続いたのである。平年より一カ月も早く梅雨は訪れ、一カ月も遅くその陰湿な季節を終らせた。来る日も来る日も曇天、雨天の、気のめいりくる様な天候の中で、我々は練習に練習を重ねていつた。暗雲よりふりくる雨がプールの水面を激しく小さく踊らせる中に、我々は、ランバス、寝がえり、ロングバス、対々バス……と練習を続けていつた。我々の意気は盛んであつたが、京大をその競泳力とこの試合のたぬ合宿をやつてゐるという情報故に、決してあなどることはできなかつた。大方の予想では、神大の勝ち、但し神大のプールはキーパーが立てるので得点差はわずかと云ふことであつた。

試合一週間前に至つて、我々は試合数の少ないことを補うため

全員に都合の良い午前中に紅白試合を行ひだした。この紅白試合をやるにあつて水泳部員の少ないことを痛感させられた。紅白あわせ十四人とレフリーの一人がなかなか集れぬのである。我々はこの様な練習の下に京大と対戦した。四年生は勝てるとの弁であつたが、始めてこの試合を経験するものには、その様な自信は皆皆目なかつた。

試合開始、オクオーター、2―10で神大リード。オクオーター、4―10。この4点で神大の優勢は決定的なものになつた。オ三、オ四クオーターと神大は着々と得点を重ねていき、予想外の大差13対1で京大を粉砕した。

勝因を数え上げれば、良きコーチ、良き練習相手池高。と。と。いろいろなあると思うが、結局は、練習量の差であつた。

関西水球リーグ戦

京大戦より遅れること二日、関西水球リーグ戦が大阪プールに於て行われた。京大の実力はすでに先日の定期戦より知れてゐる。大阪市大の実力も、新戦力が台頭してゐないかぎり、我々は熟知するところであり、勝つ自信はあつた。甲南大は棄権、すなわち残る立命のみが我々の眞の相手なのであつた。神大は例年、立命に苦杯をなめさせられ、二位に甘んじさせられている。今年こそはなんとしても立命を下したかつた。我々の水球練習の眞の相手

は京大戦の前においてもやはり立命であつた。旧三商大戦完全優勝並びに今リーグ戦優勝後の全日出場を今シームズの目標にキャプテン以下4年生は高々と掲げていたのである。立命戦は今シームズの一つの山場であつた。植中さんの

植中さんの笛の下に宿敵立命と対戦したのは初日である。オクターでは、先取点を神大は上げ、幸先のよい出だしであつた。その先取点も、すぐに取りかえされたが、まずは互角のオクターであつた。しかしオ二、オ三オクターとフローテングにかきまわされ、大きく差をつけられ、オ四オクターで少々善戦したが、形勢逆転することゝあつた。10対4で敗れた。なお大阪市大には、2対14で勝ち、京大には2対18で勝つた。

京大 2
13 神大

関西水球リーグ戦

神大 14
2 大市大



神大 18
2 京大



神大 4



10 立命館大

第一次合宿

昭和三十八年度のオ一次合宿は、七月一日より七月七日まで、六甲台プールに於て行われました。今年の一次合宿は比較的好天に恵まれたこと、それから参加人数が少なく、合宿所が広く感じられたことで、こゝ二、三年の一次合宿と違つていました。以下、一次合宿の日誌からひろつてみました。

七月一日(一日目)

夏の風物誌「河童の合宿」が始まつた。これがないと夏の気分がでない。今日は朝八百米、午後四百米インターバル四本とボロの練習で、去年と変つた所は四百米インターバルと飯代が高くなつた事、姫路一年生の参加が少ないことである。

合宿には昼の部と夜の部がある。この二つは全く異質のものである。特に夜の部は一癖も二癖もありそうを連中ばかりだからおもしろい。(二年・中畑)

七月二日(二日目)

今合宿も例年の如く寝られないが、あの中畑のいびきを丸山がとめたことは愉快である。しかし以後も、木下の寝言と中畑のい

びきには悩まされそうである。

(三年・前田)

七月四日(四日目)

今年の合宿では何故に六甲ハイツを探訪するが如き不貞の輩が居らんのか、大変なさげなく思う。去年などは皆ひんばんに出かけていつたものだ。

(四年・清水)

七月五日(五日目)

今日は木曜日だと信じこんでいたのだが、もう金曜日になつてゐると聞いて驚いた。丸山(J)が時の流れの速さに驚いてゐる由記している。それが四年になると更に加速度的に一日一日が過ぎ去つてゆく。木曜日なんだと錯覚したのも、もう少しの時日を我に与え給えと願う四年生の一人としての気持が、そうさせたのかも知れない。

この合宿の目標たる旧三商大戦は、あと二週間後に迫つてゐる。(中略) 総じて旧三商大戦では神戸に勝機充分である。完全優勝が可能である。一昨年の完全優勝の喜びを想い出し、一昨年と同じ大阪プールで再び同じ感激にひたろうではないか。

奮起しよう、部員諸君!

(四年・武政)

かくして、厳しく又楽しい一次合宿も、その成果をためす対市大戦を残しほぼ全日程を終了しました。

対 大阪 市 大 戦

日本最古の伝統を誇る大阪市大との定期戦は、一次合宿の最後を飾つて七月七日六甲台プールで行われた。

競泳の部では最初のメドレー・リレーに失格し、その後の得点争いを面白いものにしたが、徐々にもりかえし勝利をおさめ、水球の部でも市大を無事下し、両部門に於て勝利をにぎつた。

(1) 四〇〇米混継泳

木下 安 茂 阿 部 武 政 失 格

(2) 四〇〇米自由型

鈴木 六分〇三秒〇 4
石原 五五三二 3
手嶋 六一四〇 5

(3) 二〇〇米平泳

安 茂 三分〇一秒九 3
西 島 三二六〇 4
阿 部 三〇〇一 1

(大会新)

(4) 二〇〇米個混継泳

武 政 三分〇〇秒六 4
小 越 二五三三 2
日 野 三一〇二 6

(5) 二〇〇米背泳

山本	三分四一秒八	6
前田	三〇八八	2
木下	三〇六〇	1

(大会新)

(6) 一〇〇米自由型

堤	一分〇九秒一	1
丸山	一一一八	3
宮部	一一四一	5

(7) 八〇〇米自由型

樋口	一二分三二秒一	3
小越	一二〇七二	2
日野	一二三九六	4

(8) 二〇〇米蝶泳

武政	二分五九秒五	2
安茂	三一二二	3
阿部	二五六一	1

(大会新)

(9) 八〇〇米継泳

小越	石原	日野	堤	一分五五秒二	1
----	----	----	---	--------	---

水球

神大 5 — 3 市大

第二次合宿

一次合宿の最期を飾る対市大戦を辛くも逃げきるが如くの結果に終えた我々は、二週間後に控えた今年最大の戦いたる旧三商大戦を迎え撃つべくや、まずは心構えからというわけであらう。四日間の休養に入つたのである。八月に入れ替えた水もぬるみ、プールサイドの木は青々と繁り、天気も上々、旧三商大戦いざ迎え撃たんという意気どみがこの休養のうちに全員の心に焼きつけられた。そのうち、一年生の誘いの手がうまかつたのだから、高市君の登場。神大、彼なくしてはという感が深かつただけに、一層意気高揚した。

しかしこの時の全部員の気持は……。前田さんの記に、「試合結果を予想すると神大が一つ橋大を三点リードして勝てるが幾分甘い所がある」と。又真喜志の記にも「前田さんの三商大の予想は甘い。フリー陣には甘すぎる」と。はたしてこの時、全部員の心の中に完全優勝などという偉業が考えられたであらうか。考えるに、対市大戦の苦戦は、旧三商大完全優勝という偉業を神大に

さしめるための種の仕業と思われる。

某人記「夜、六甲ハイツ探訪。女のウメキ声聞える。残念にも近よれず」。合宿の名物である六甲ハイツ探訪は今まだ現存していたのである。この探訪、聞こえはいいが、実際苦しいものである。目標に近づく。身動き出来ぬ。蚊にはさゝれる。しびれはされる。犬にでも吠えつかれたら最低である。これを押して出かける探訪者諸君に私は畏敬の念を払いたい気持です。さすがは水泳部員、昼の練習の苦しみを忘れてこの苦しみを取立て辞さぬところ、立派です。実際、獲物をみつけたときの気持は、何とも云えませんがね。

二次合宿の鈴木さん、小越君は云うにおよばず、日野、宮部君の躍進ぶりは、フリー陣に明るい燈を投げかけてくれた。特に鈴木さんの躍進振りは、一・二年生を思わせるものがありました。そしてプレストの安茂さん、弱冠十九才の阿部君、バツクの前田さん、木下君、そしてこれ又弱冠十九才の高市君、バツタの武政さん、彼らの心は完全優勝を目ざしていた。そしてポロメンは池校へ、リハーサル。いよいよ旧三商大戦は目前にせまつたのである。

第三十一回 旧三商大戦

七月二十一日。待ちに待つた旧三商大戦の日が遂に来た。

猛暑、快晴、水温適温。一橋、市大両校を迎えうつつには絶好の日

よりである。今日こそは昨年の競泳の雪辱を果さんものと各人の眼は闘志と気魄がみなぎっている。

試合の一週間前、東京の先登A氏から電話で連絡あり。今年一橋は競泳もボロも大した事ないぞ、かと云つてなめちあだめだがね。とにかくベストを尽くしてくれ。祈る。多少この通報にも気を良くしていたが、とにかく皆んなの胸の内には一橋に今日こそ一矢報いてやらねばという堅い誓いがある。

愈々試合の火ぶたは切つて落された。

四〇〇米混雑泳のスターターは高らかに鳴り、一瞬ブルサイドの部員の顔は緊張で引締つた。幸先よくトツプを奪う。その後、続々ベスト、ベストの声でブルサイドから引き上げられ、互いに肩をたたきあつた。先輩の方々も最初の緊張した面持は消え去り、喜びの色に変わつていつた。

旧三商大戦

(1) 四〇〇米自由型

小越信昭	五分三五秒三	2
鈴木正彌	五五七七	
樋口周平		

(2) 二〇〇米平泳

安茂 弘	二分五六秒二	2
阿部洋三	二五五一	1
山口尙彦		

(3)	二〇〇米背泳	前田和秀	三分〇六秒〇	
		高市一字	二五四二	
		木下		
(4)	一〇〇米自由型	官部	一分〇九秒〇	2
		堤	一〇九五	4
		西島	一一五七	1
(5)	八〇〇米自由型	小越	一分四五秒四	3
		日野	一一五六二	4
		手嶋	一二二九七	
(6)	二〇〇米蝶泳	武政	二分五九秒四	2
		阿部	二五四四	1
(7)	二〇〇米個人混継泳	武政	二分四八秒七	2
		小越	二四六八	1
(8)	八〇〇米継泳	神戸大学	一分四〇秒六	2

競泳は二位の一橋に二十六点の差をつけ堂々の優勝である。

昨日までの蒔いた種が実つたのだ。全員が喜々としている。勿論この余裕をもつてすれば後のポロの方の優勝も堅いだろう。しかしこれはあくまでも未来形だ。ベストを尽す。これがスポーツマンの現在形なのである。

昼憩の三十分後ポロが始つた。一橋大と市大の試合は四対一で一橋辛くも逃げ切つたの感があつた。これなら鍛えに鍛えぬいた我が精銳は勝てる。益々自信を深める。

愈々問題の一橋対神大の試合開始！

・ギツチリイコウゼ・ボールは投げられた。我神大の。Fはボールを取つた。相手チームの一瞬のひるむ隙にボールはバックからフォワードに転々、アツという間に手から手へそしてストリートがドカーンと炸裂した。一橋チーム全員を震感させるに十分を見事な速攻であつた。オクオーターは300だ。オクオーター以下、一橋の追いつく暇を与えずますますその差は増大していく。・当然さ。二次函数と無理函数の相異だね・と誰かが叫んだ。

我神大軍は計九点を得点した。唯、少し残念なのは最終クオーターで一橋に2点をゆるし、シャットアウトに出来なかつた事である。

最後に残された市大とは問題のない試合運びで、少々酷な言い方かも知れぬが、赤子の手をねじることく二十一対三の大差をつ

けて勝つた。

やつた、やつた、またも神大完全優勝なる。全員の顔が今日一日で今までの倍程も真黒だ。

翌日、真昼間から田口部長宅で祝杯を上げ歌に陶酔する。引き続いて夕方から古林先生宅へ祝杯のインターバル。その日一日で空にしたビールの数は、しめて百二〇本余であつたとか。これには、両先生もさぞかし泡を食つた事と思います。

水球の部

神戸大 9

3 1 2 3
1 1 1 1
2 0 0 0

2 一橋大

大市大 3

2 1 0 0
1 1 1 1
6 5 6 4

21 神戸大

(横田記)

関西国公立戦

三商大戦の完勝の後、一週間の休暇を過ぎた我々は来る八月七日の関西国公立戦に備えるべく前田新キャプテンの下に練習を開始した。午前十時に練習が始まり十二時半ごろには終るとい比較的短い練習時間ではあつたが密度の高いスピーディーな練習であつた。総じて我々の調子は三商大ボケとも言わざるを得ない

下り坂ではあつたが、各人栄冠を目指しての練習はその下向線を何とか上向きにしようという意欲がありありとうかがえた。記録帳を見ると、一部の四年生の方が調子を上げています。責任をはたしたという安心感がかえつて好結果を生んでいるのでしょうか。又、練習日誌をのぞくと、ある日午後から海水浴へ行つたことが書いてあります。一、二次合宿で修業坊主のような生活を送つていた我々には、久し振り心の浮き浮きする練習だ、と誰かが書いておられます。

さて、試合当日は新装なつた府大の五〇米プールに関西の十余の国公立大学の水泳部が集まつた。我々神大水泳部はすでにその調子は下り坂をたどつており、かろうじて阪大、京大、大府大に次いで四位になつた。

(記録の喪失によりタイムは記載できません)

第三次合宿

三次合宿を語る前に、先ず中村市治先輩に感謝しなければならぬ。次の合宿初日の鈴木さんの日誌の気持ちを我々は持つていた。「今度、中村さんには一方ならぬお世話になり、我々は本当に感謝の気持ちでいっぱいである。よき先輩をもつた我々は、又良き後輩になることに努力しよう。三次合宿は、四国今治市市民プール(五〇米、九コース公認)で八月二十一日より八月二十八日まで

行われた。関西地方の者は大阪発夜八時三〇分、神戸発九時の関西汽船にしき丸に岡田先登に見送られて乗船、堤、安茂、北村以上四年)、前田、丸山(三年)、山口、小越、樋口、中畑(二年)官部(一年)の各部員、他の部員は二十一日午前一〇時今治ブルーでおち合ひ予定。幸い星空だったので上甲板で毛布を借りて眠る。風邪を引いた者なし。今治港着二十一日午前五時四〇分、港よりバス。想像外の都会であり、市役所、公会堂の見事さに驚く。中村先登のお蔭で得た宿舎である公民館着六時すぎ、早々眠る。

一〇時ブルー集合。上記一〇名の他に、山本、鈴木(四年)、石原(三年)、木下、真喜志、日野(二年)、福井、久保、安東、上原(一年)が加わる。一〇時より八〇〇米一本。フリーでは十二分台が三人という低調さであった。食事は中村先登の会社の食堂で取る。同日午後(午後になつて変る)前田キャップの主唱する四〇〇米個人メドレーは六分台四人。

二十二日(天気・晴れ) 合宿練習の基本線は午前中競泳、午後ポロ中心である。午前八〇〇米(十二分台四人)、一〇〇米一〇本、五〇米一〇本、午後四〇〇米個人メドレー計二七〇〇米水球、ボールワーク。午後の練習が少ないのは、ブルーで遊ぶ一般人の為に三時に練習を始め、しかもフルコース使えなかつたから(三時に始めることがむずかしく、四時、五時になる日もあつた)。個人メドレーは目の前が白くかすむ程疲れるものであつたから有効だつた。三次合宿の目的の一つは、二週間をまづっていた体

を復元することであるから。今治才一夜、石原の案内で全員くり出す。

二十三日。午前一〇〇〇米、一〇〇米七本、五〇米六本、五〇米ダッシュ一〇本。午後個人メドレー、ポロ計二九〇〇米、今日からロングに制限タイムがつく。「三次合宿。誠に苦しい合宿である。それだけ三年生の意気込みが感じられる。皆さん頑張ろう。小生については体調思わしくなく、記録もよくなって、その点ではつらい合宿である。」二十三日の日誌より官部記。夜、中村さんの差し入れのビールで少し浮く。遅れていた部員も到着、顔がそろろう。

二十四日、晴れ。午前一〇〇〇米、一〇〇米一〇本、五〇米一〇本、計二五〇〇米。今日は土曜日人出多く午後の練習不能。近くの島でアワビ採り、パチンコ、読書、昼寝等々。

二十五日(日曜)晴れ。東伊予青年団対抗水上競技大会。我が神戸大学水泳部もオープンで参加。午後恒例の個人メドレー、タイムが著しく上昇した者数人。その後ポロ。

二十六日。午前八〇〇米、一〇〇米一〇本、五〇米ダッシュ一〇本。午後個人メドレー、ポロ、計二七〇〇米、練習開始が四時四五分にずらされる。「三時三〇分ブルー集合が混雑の為四時四十分になる。パンザイを叫びたい感じ」二十六日の日誌より。

二十七日。午前一〇〇〇米、一〇〇米十二本、五〇米ダッシュ十二本。午後個人メドレー、ポロ。さらに新人開拓のため、パタ

フライ、プレスト各々五〇米、上原がバタフライに、日野がプレストにいいのではないかの予想。今日の練習は三三〇〇米。合宿最終日を翌日に控えて、夜ミーティング。精神的なゆるみが見られることが指摘された。

二十八日最終日レース。トップの者のみを挙げると（四年生は入っていない）、

フリー	四〇〇米	小越	五分四七秒一
フリー	二〇〇米	小越	二分三七秒六
フリー	一〇〇米	丸山	一一一〇二
プレスト	一〇〇米	日野	一一二八六
		阿部	不調
プレスト	二〇〇米	阿部	三二五〇
バツク	一〇〇米	木下	一二六八
バツク	二〇〇米	木下	三〇九四
バタフライ	一〇〇米	中畑	一一三九二
		(堤)	一一一六八
バタフライ	二〇〇米	中畑	三三二〇〇
		(武政)	三〇五五

以上良いとは決して言えぬ記録ばかりである。今合宿を通して考えてみると、確かに気分がややだらけていた。僕の記憶では合宿中デイトがひんばんにあつたのは今度が初めてである。三次合宿には水泳部の旅行という面もあるのだから……という考え方もある

だろう。

関西インカレ

八月三十一日・九月一日（於・大阪プール）

四国今治での三次合宿の成果を問うべき試合であつたが振わず、二部で五位に甘んじた。去年に続きエースのなさに泣き、点を取るのに苦心した試合であつた。同じ大阪プールでの三商大戦で圧倒的勝利を経験したあとだけに一層寂しい感じがした。尙、阪大が二部で優勝し一部に進出、甲南が二部に落ちた。

(1) 四〇〇米混継泳

木下 安茂 武政 堤 五分一五秒一 4

(2) 八〇〇米継泳

小越 石原 武政 堤 一分三五秒〇 4

(3) 四〇〇米個人混継泳

小越 六分二〇秒〇 5

(4) 八〇〇米自由型

小越 一分五六秒六 8
堤 一二二二八
日野 六五八〇

(5)	四〇〇米自由型	
	小越	五分三六秒〇
	石原	五三八三
	手嶋	五八八
(6)	二〇〇米自由型	
	石原	二分三六秒〇
	樋口	二四三二
	宮部	二四二二
(7)	一〇〇米自由型	
	鈴木	一分一三秒七
	丸山	一〇七五
(8)	一〇〇米蝶泳	
	武政	一分一七秒〇
	堤	一一八六
	中畑	一三四五
(9)	二〇〇米蝶泳	
	武政	三分一七秒八
	中畑	三四〇五
(10)	一〇〇米平泳	
	安茂	一分二三秒五
	阿部	一三二八
	真喜志	一三六五

(11) 二〇〇米平泳

安茂 三分〇四秒五 7

阿部 三一三二

真喜志 三三二五

(12) 一〇〇米背泳

前田 一分二八秒五

木下 一二六一 1

(13) 二〇〇米背泳

前田 三分〇六秒〇 8

木下 三〇五六 7

近畿地区国立大学体育大会

九月三・四日 (於・京大吉田プール)

京大、阪大、神大など、九校が参加して行われた。昨年までは「畿地区大学体育大会」という名称であったが、今年から国立大学体育大会と名が変わった。才三次合宿、インターカレッジと続いたすぐ後で、皆、いささか疲労きみであつたが、半数近くが自己ベストを更新した。しかし戦果振わず、インターカレッジに続いてまたもや阪大、京大、に大差で敗北した。

成績 阪大、京大に次いで才三位。

(7)	(6)	(5)	(4)	(3)	(2)	(1)
武政 中畑	阿部 安茂 上原	安茂 日野 阿部	丸山 宮部	樋口 鈴木	小越	手嶋 小越 日野
一〇〇米バタフライ	二〇〇米プレスト	一〇〇米プレスト	一〇〇米自由型	二〇〇米自由型	四〇〇米自由型	八〇〇米自由型
一分一四秒七 一二七五	三分〇五秒二 二五八〇 三二九二	一分二二秒〇 一二五五 一二五一	一分〇七秒二 一〇七〇	二分四〇秒八 二四四二	五分三一秒一	一分一五秒一 一二六二 一五四三
5	5	5	4 6	5	6	5

(14)	(13)	(12)	(11)	(10)	(9)	(8)
小越 日野	木下 安茂	日野 官部	武政 小越	前田 木下	木下 前田	武政 中畑
八〇〇米継泳	四〇〇米混継泳	二〇〇米リレー	個人メドレー四〇〇米	二〇〇米バツク	一〇〇米バツク	二〇〇米バタフライ
丸山 一〇分二八秒八	丸山 五分〇七秒六	丸山 一分五七秒五	六分三五秒五 六分二二秒四 六一〇三	三分〇五秒八 三〇〇五	一分二三秒五 一二六二	二分五七秒七 三二八〇
3	3	3	3 4 6	5 6	4	4

京阪神三大学ジュニア戦

九月五日 (於・京大吉田プール)

大学における水泳部の活動が活発になり、最近各大学とも、その部員数を順に増し、日頃練習に励むも不幸にして対外試合に出られない部員のために今年から行われることになつた。前日まで続いた試合ではりつめた気持もやわらぎ、各大学の部員とも和気あいあいのうちに試合は続けられた。層の厚さをほこる我が校と阪大の決戦となり少差で阪大に惜敗する。試合後、京大の主催で三大学ミーティングが行われた。

順位：阪大、神大、京大。

月 見 の 宴

九月七日。シーズンも一段落つき、プールでの練習は来シーズンの為のポロだけとなり、形の上では納会となつてゐる月見の宴となる。

愛泳会総会を同時に開いたので、多数の先聲が集まられた。合宿でお世話になつた今治の中村先聲からは「ツゴ ウデ ヌケヌ ヨロシク」との電報あり、再会を期待してゐた現役は残念がる。好評だつたホルモン焼きは準備が間にあわずホルモン不足を嘆いて居られた先聲諸兄にはおしかりをうける。料理をほぼぼり、コップを傾けるうちに、酔いもまわる。今は卒業された方々は、昔話に花が咲き、恋敵云々のエピソードが公開されたり、「ヘソの真ん中にナニがある？」等々の珍歌を披露するうちに、「お月さ

ま」も一と夏、部員の汗とアカをのみこみながらも澄んだプールに白い姿をうつし、比較的若い(!!)O・Bは懐しそりにその月の姿にビートのしぶきをかけつつ泳がれる。宴もお開きになり、O・Bの方々はつれだつてプールを去り、現役は来春のプール掃除まで……と残つた十数本のビールを沈め(これは後日早々と掃除した部員を多数目撃した)ロツカで二次会。古林、田口の諸先生、山田、大内、吉野、三宅、石井、小原、榊原、岡田、山口、岡見、阿部、栄川、酒井、浅間、萩原、丸山の諸兄が御出席して下さいました。

(真喜志)

冬 期 ト レ ー ニ ン グ

十月も中旬を過れば、河童連中もいつまでも水の中に居るわけにはいかない。それでいやいや陸へ上つて、陸上トレーニングなるものを始める。河童用語では、季節はまだ秋だといふのにこれを冬期トレーニングと言つてゐる。毎年その年の主将によつて方針が違うが、前田主将の今年の方針は、足をきたえることである。それでもつばら走ることに重点をおいて練習をしているのだが、走と泳の因果関係がどうなつてゐるのかわからないが、走の順序が泳の順序にならんだ事はほとんどない。陸競が今我部の部屋に仮住いをしてゐる関係から、時々一緒に走つたりするが、胴長足短の我部員と、どちらかといへば足が長くスマートな陸競部員と

の対比は、我々に河童であることをあらためて認識させられた。冬期トレーニングは来シーズンの成績を占うものであるが、シーズン・オフという事で、なんとなくゆつたりした気分が漂つていて、週に一度はソフトボールをしている。しかし一期の分をとりかえすべく熱心に勉強をしているのか参加者はあまり多くないのが気にかかる。

(阿部洋三)

追 い 出 し コ ン バ (11月23日)

今年三宮のレストラン美松にて行われた。先生、先輩方が多数列席され、又四年生を無事追い出してやらねばと姫路の一年生もかけつけた。四年生は僕が先に海外へ行くのじやないだろうかと、卒業後の話がとびだす。我々現役部員は卒業後の御活躍にも期待しています。当日はおり悪しくケネディ大統領の暗殺された日で少々盛り上りが足りなかつたようだが、ケネディ大統領はハーバード大学当時、水泳部であつたといわれる。あの若々しさはこんなところ由來するのだろうか。

「若者よ、体をきたえておけ!!」

ダ ン ス パ ー テ ー ー

十二月十一日、ダンスパーティーの当日であるが、一度も踊つ

たことはないし、勿論パーティーなどは一度も行つた事はないから不安で仕方なかつたが、ボックスだけでも結構踊れるとなだめられて、生れて初めてネクタイをしていそいそと出かけた。会場の御影公会堂へ行くと、殆んど全部が来ていた。相手の松陰の女性とは見ると、ロケ地へ来た女優達を見集つた野次馬と女優との割合ぐらゐに女性が少なかつた。実際はこちらが三十人程、松陰が十二・三人であつたが、踊れない者のひげ目であぶれるのではないかと心配した為にそういう様に見えるのかも知れない。

僕等のこの様な心配は幹事の思いやりで、時差ダンスという形で解消された。最初に三・四年生が相手をして踊つたが、見ているとうまい人もいるがもたもたしている人もいる。あの程度なら踊れるかも知れない、安心したと思つていたが、いざ自分達の番になると全然だめである。音楽には合わないしボックスさえうまくいかない。相手の足につまづいて僕の自慢の腰もフラフラするし、靴は先の方が白くなつてしまつた。やつと一曲終つて逃げ出して来た。一・二年生の大部分が僕と同じ様であつたらしく「あかな、さつぱりうまい事いかへん」とぼやいていた。最初がこんなふうだつたからすつかり意気消沈してしまい、椅子に座つて他の人の踊っているのを見たり、お菓子を食べていたりしたが、十曲程踊つた頃、ムードが盛り上つて来ていたのかどうか知らないが、せつかく来たんだから恥をかいてもいいじやないか、なんでもかんでもやつてやれ、と植木等並みの無責任ぶりを發揮して、それ

からは座つてゐる女性をつかまえては殆んど連続して踊つた。ステップなどめちやめちやで、曲に合うようにたゞ体を動かしてゐるだけである。だが相手の女性は文句も言わずつきあつてくれた。始めてから一時間少し位過ぎた頃にコーヒーとケーキが出た。それを食べた後でも少し踊つたが、僕のステップは足が長いせいだろうか踊つてゐるうちに段々歩幅が広くなりテンポも音楽より速くなつてしまふため疲れて汗が出た来たので、休んでレコードプレーヤーのところへ行つてぼんやりながめていた。すると原田美彌子さんを少し小さくして余分な肉をちよつとつけた位のグラマーが、踊りませんかと言つて来たので、一瞬とまどつたが一緒に踊つた。それまで小さい人とはかり踊つていたから少々勝手がちがう、間違つてステップをしようものなら相手にぶつかつてこちらがはねかえつてしまふ。丁度今まで軽自動車にばかり乗つていた者が外車に乗つた時のとまどいのようなものである。仕様がなから運転法を教へてもらつた。まるでこちらが車になつてしまつたようである。彼女はクォーターターンスを教へてくれた。

その時彼女は「男子は出たり入つたりした方がいいのよ」という。僕は吹出しそうになつたが失礼だと思つて懸命にこらえた。他にもルンバなどを教へてくれたが、大型車だけに小廻りがきかないからうまくいかなかつた。終りの頃になるとフツリフツリと大きく揺れ、又座席も大きくクッションもよいから乗心地が良くなつてきたが適当に切上げた。終つてから彼女の言う事には「まだ他

に踊つていない人はいませんか」と言うのである。それで初めて彼女から声をかけて来た事がわかつた。一・二年生があまり踊らないので三年生が頼んだらしい。彼女は自家用車ではなくタクシーだつたのである。なあんだ。

そろそろパーティーも終りが近づいて来た。越路吹雪の「ラストダンスは私と」を聞くと、ラストダンスはいいものらしいから僕も踊つてみたいと思ひ、少し早めにパートナーを確保してラストダンスを踊つた。ラストダンスをしてからパートナーを家まで送つて行くのがラストダンスのいゝところだろりに、そうは問屋が下さなかつた。何しろ女性が少ないので解散後は三・四年生がナイトの役を引受ける事になつて、我々一・二年生は椅子や机を元の所に送り届けたり茶碗を洗つたりした。最後は残念だつたが結構面白かつた。

昭和三十九年度 日程

- 五月二四日(日) 関西学生水球トーナメント(府大プール)
- 五月三一日(日) 京阪神三大学戦
- 六月一三日(土) 関西学生選手権 (大阪プール)
- 一四日(日)
- 六月一九日(金) 関西選手権
- 二〇日(土)

38年度部員ベストタイム

	50m	100m	200m	400m	800m
フリー					
13 石原	31'2	1'08'7	2'35'0	5'37'6	12'11'0
13 丸山	30'0	1'06'1	2'39'0	6'30'0	12'57'0
13 横田	34'0	1'19'0	2'55'0	6'48'0	13'58'0
14 樋口		1'13'0	2'37'0	5'55'0	12'31'0
14 日野					11'54'3
14 手嶋		1'12'1			12'15'1
14 西島	31'8	1'15'0	3'00'0	6'52'0	14'34'0
14 小越				5'31'0	11'26'0
14 山口	37'0	1'23'0	3'10'0	7'20'0	15'05'0
15 宮部	27'8	1'05'9	2'35'8	5'51'0	12'40'0
15 上原					
15 久保					
15 福井					
ブレスト					
13 山口		1'27'0	3'12'0		
14 真喜志					
15 阿部		1'25'0	2'55'1		
15 橋田					
バツク					
13 前田	41'0	1'25'9	3'02'0		
14 木下	39'6	1'22'5	3'00'5		
バタフライ					
14 中畑	39'0	1'27'2	3'28'0		
15 阿部	34'0	1'14'5	2'54'7		

六月二日(日) 関西選手権
 七月一日(木) 関西国公立戦
 ◇一七日(金) ◇
 七月二五日(土) 全国国公立戦
 ◇二六日(日) ◇

(大阪プール)
 (府大プール)
 ()
 ()
 ()

八月三〇日(日) 兵庫インカレ
 九月一日(火) 関西学生水球リーグ戦
 ◇二日(水) ◇
 (未定)
 ()
 ()
 ()
 なお、大阪市大戦、旧三商大戦、京大水球戦、近畿国立大戦の日
 程は未定。

